Pioneer sound.vision.soul

AVマルチチャンネルアンプ

VSA-C502

お使いになる前に
各部の名称とはたらき
接続
基本操作
応用操作
設定
他機器の操作
その他

インターネットによる登録のお願い

http://www3.pioneer.co.jp/

お買い上げの製品について、上記URL「お客様のページ」でお客様登録をお願いします。

この「お客様のページ」は、お客様とのコミュニケーションを目的としたウェブサイトです。新規登録されたお客様にはID・パスワードを発行させていただき、新製品のカタログや取扱説明書のダウンロード、メールマガジンの購読など各種サービスをご利用いただけます。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意（絵表示について）

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

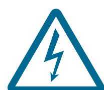
⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

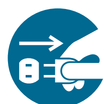
絵表示の例



△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中や近くに具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



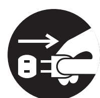
⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



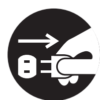
● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中や近くに具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠ 警告

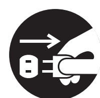
異常時の処置


プラグを抜け

- 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。


プラグを抜け

- 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。


プラグを抜け

- 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



プラグを抜け

- 電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



禁止

- 付属の電源コードは本機でのみ使用することを目的とした専用品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属されているもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、本機の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱により火災・感電の原因となることがあります。



禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



禁止

- 放熱をよくするため他の機器、壁等から間隔をとり、またラックに入れる時はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。
→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。
→じゅうたんやふとんの上に置く。
→テーブルクロスなどをかける。

使用環境



水ぬれ禁止

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



風呂場・シャワー室での使用禁止

- 風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



100V以外禁止

- 表示された電源電圧(交流100ボルト50/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



禁止

- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



水ぬれ禁止

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物をおかないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



禁止

- 本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



分解禁止

- 本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



禁止

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。



接触禁止

- 雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠ 注意

設置



必ず行う

- 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



禁止

- 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。



禁止

- ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止

- 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



注意

- テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。



注意

- 電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。


禁止

- 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。


禁止

- 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)


禁止

- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。


禁止

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。


プラグを抜け

- 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。


禁止

- 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。


注意

- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

→送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
→BS、CS放送受信用アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取りつけてください。


禁止

- 窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法


禁止

- ディスクを使用する機器の場合、ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。


禁止

- レーザーを使用している機器では、レーザー光源をのぞきこまないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。


禁止

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。


禁止

- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。


手の挟みこみに
注意

- お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因になることがあります。


注意

- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。


プラグを抜け

- 旅行などで長期間、ご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池


禁止

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


注意

- 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(−)の向き)に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


電池を取り出せ

- 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。


禁止

- 電池は加熱したり分解したり、火や水の中にいれないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検


注意

- 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。


プラグを抜け

- お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



ご注意

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1．一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

もくじ

お使いになる前に

各部の名称とはたらき

接続

基本的な使いかた(基本操作)

いろいろな使いかた(応用操作)

システム設定(設定)

他機器の操作

その他

メモ

▼ 手軽にホームシアターを楽しみたいとき

簡易マニュアル『ホームシアター入門』⇒ 別添

▼ ご覧になりたい項目を早く見つけたいとき

- 『目的別索引』⇒ 60 ページ
- 『各部の名称とはたらき』⇒ 9 ページ
- 『用語別索引』⇒ 61 ページ
- 『故障かな？と思ったら』⇒ 56 ページ

お使いになる前に

本機の特長　～こんなことができます～

ホームシアターの実現

◆ **次世代マルチチャンネルフォーマット対応**
本機は高音質フォーマットDTS *2 96/24デコーダーを搭載しています。また、BSデジタル標準音声「MPEG-2 AAC」、「Dolby Digital *1 EX」、「Dolby *1 Pro LogicIIx」および「DTS *2 ES」などにも対応しています。

- **MPEG-2 AACデコーダー搭載(53ページ)**
BSデジタル放送のサラウンド音声もマルチチャンネルサラウンドで楽しむことができます。
- **DTS 96/24デコーダー搭載(53ページ)**
DTS 96/24で収録されたハイクオリティー音声をお楽しみいただけます。
- **ドルビープロロジックIIx/DTS Neo:6回路搭載(54ページ)**
2チャンネルステレオ音声や、ドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもドルビープロロジックIIxやDTS Neo:6の技術を使ってマルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。ドルビーデジタル5.1chで収録されたソースは、ドルビーデジタルサラウンドEXデコードを行い、6.1ch化して再生します。

◆ **アナログ5.1ch入力端子搭載**
5.1chアナログ音声出力端子の付いているDVDプレーヤーや外部機器と接続することができます。

簡単便利！！

◆ **「MCACC(Mulch-channel Acoustic Calibration System)」搭載（24～26ページ）**
従来難しいとされてきたサラウンドに関する調整を自動で高精度に行うことができます。さまざまなテストトーンを本機が自動解析し、制作現場で行われている試聴環境の特性に合わせてチャンネル間の空間情報の歪みなどを補正し、正確な音場を実現します。

◆ **簡単リモコン付属**
本機に付属のリモコンは主要なアンプ操作部分が独立しているので便利です。また、プリセットコードを設定して他機器(テレビ、DVDプレーヤー、VTRなど)を操作することもできます。

◆ **パイオニアプラズマディスプレイとのシステム動作を実現（19、46～47ページ）**
パイオニアのプラズマディスプレイとSR+ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。

◆ **豊富な接続端子**
本機はデジタル音声端子、S2映像端子およびD4映像端子にも対応しています。接続端子を豊富に装備しているので、テレビに接続されている映像機器などを接続することができます。

バラエティ豊かなホームシアター

◆ **豊富なリスニングモード(27～29ページ)**
映画や音楽だけでなく、テレビやゲームなど、お聴きになるソフトに合わせたサウンド効果を加えることができます。

◆ **バーチャル機能搭載(28ページ)**
ヘッドホンや2つのスピーカーのみといった環境でも、マルチチャンネルサラウンドで聴いているような臨場感で楽しむことができます。

◆ **ミッドナイトモード(30ページ)**
夜中など、小音量で聴いているときでも大音量で聴いているときのような臨場感を味わうことができます。

◆ **マナーモード(30ページ)**
高音が耳につくときや、低音が響きすぎるときにこれらの音を和らげて再生することができます。

◆ **ダイアログエンハンスメントモード(31ページ)**
ボーカルやセリフを強調します。センタースピーカーがテレビの上または下に設置されていても、フロントスピーカーの高さからボーカルやセリフが聴こえるように再生します。

環境に優しく

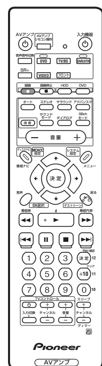
◆ **省エネルギー設計**
本製品は、待機時(スタンバイ時)消費電力を0.3Wに抑えた設計となっております。

*1 *ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、ダブルD記号及びAACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。*

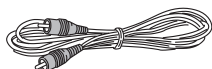
*2 *「DTS」、「DTS-ES Extended Surround」、「Neo:6」及び「DTS 96/24」はDigital Theater Systems,Inc.の商標です。*

付属品を確認する

リモコン× 1



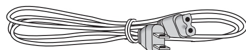
同軸デジタルケーブル× 1



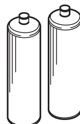
スピーカーコードラベル

FRONT L	フロント左
FRONT L	フロント左
FRONT R	フロント右
FRONT R	フロント右
CENTER	センター
CENTER	センター
SURROUND L	サラウンド左
SURROUND L	サラウンド左
SURROUND R	サラウンド右
SURROUND R	サラウンド右
SURROUND BACK	サラウンドバック
SURROUND BACK	サラウンドバック

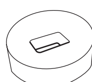
電源コード× 1



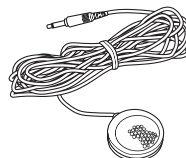
単３形乾電池(R6P)× 2



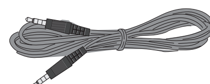
マイクスタンド× 1



MCACC 設定(オート)用マイク× 1



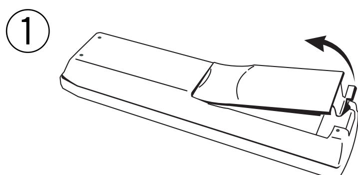
SR+ ケーブル× 1



- 保証書
- 取扱説明書(本書)
- ホームシアター入門
  (簡易マニュアル)

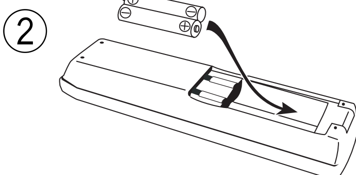
リモコンに電池を入れる

①



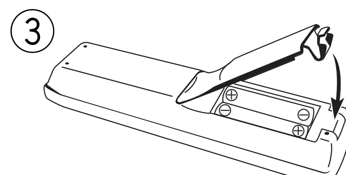
裏ブタのタブを押しながら矢印の方向へ開く

②



ケース内に表記されている極性 ⊕(プラス)/⊖(マイナス)を合わせて乾電池を正しく入れる

③



フタを矢印の方向に閉める

注意

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1カ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示(条例)に従って処理してください。

メモ

▼ 電池を交換する際は、なるべく５分以内に交換することをお勧めします。５分以内に交換しないと、プリセットコードが解除される可能性があります。プリセットコードが解除されてしまった場合は、再度プリセットコードを設定してください(50 ページ)。

▼ リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

設置について

設置する場所について

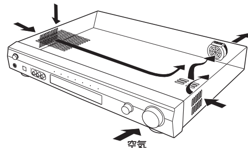
振動や衝撃が加わらない、水平で安定した場所に設置してください。以下のような場所への設置は避けてください。

- テレビやカラーモニターの上
  (映像が乱れたり、歪んだりすることがあります *3。)
- カセットデッキなどの近く
  (カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器を本機の近くで使用すると雑音などを発生する場合があります *3。)
- 直射日光の当たる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱の当たる所(台所など)

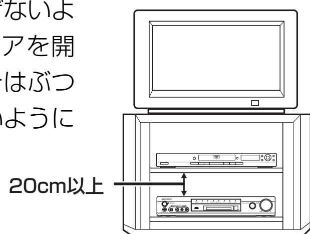
*3 *これは、アンプのトランスによるリーケージフラックス(漏れ磁束)の影響によるものです。このようなときは、設置する場所を変えるか、これらの機器を本機から離して設置してください。*

放熱について

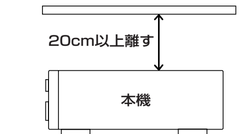
- 本機は上面、下面および両側面の通風孔から空気を取りこみ、放熱用ファンを使って後面の放熱孔から放熱する設計になっています。本機の下には布などを敷かないでください。また後面、側面ともに十分なスペースをとってください。ラックなどに設置する場合は放熱のため、後部が開放されているラックを使用するなど、通風を妨げないようにしてください。また、放熱孔がホコリでふさがれてしまうと放熱が十分にされなくなりますのでご注意ください。



- 本機をラックに設置するときは、前面にドアのないラックをお勧めします。ドア付きラックに設置して本機をお使いになるときは、使用中のみドアを開けるなどして通風を妨げないようにしてください(ドアを開けてお使いになるときはぶつかってケガなどしないように十分お気を付けください)。

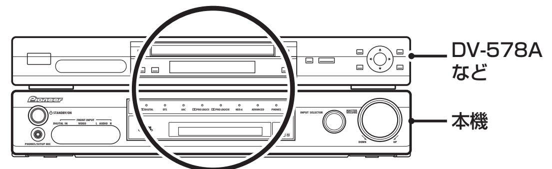


ラックなどに設置する場合は、上部に 20cm 以上空間を開けてください。

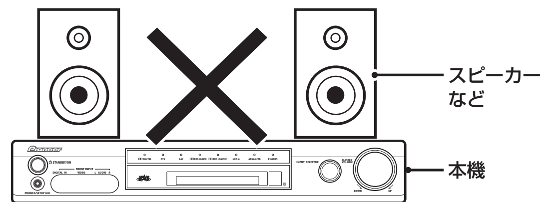


- 本機は使用中に熱を発生します。本機の上にはパイオニア製の DVD プレーヤー、「DV-600A」「DV-464」「DV-450」「DV-474」「DV-353」または「DV-578A」以外はのせないでください。

本機と DV-578A

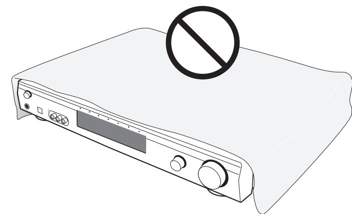


本機とスピーカーなど



- 本機とパイオニア製の DVD レコーダーを重ねて設置するときは、DVD レコーダーを本機の下に設置してください。

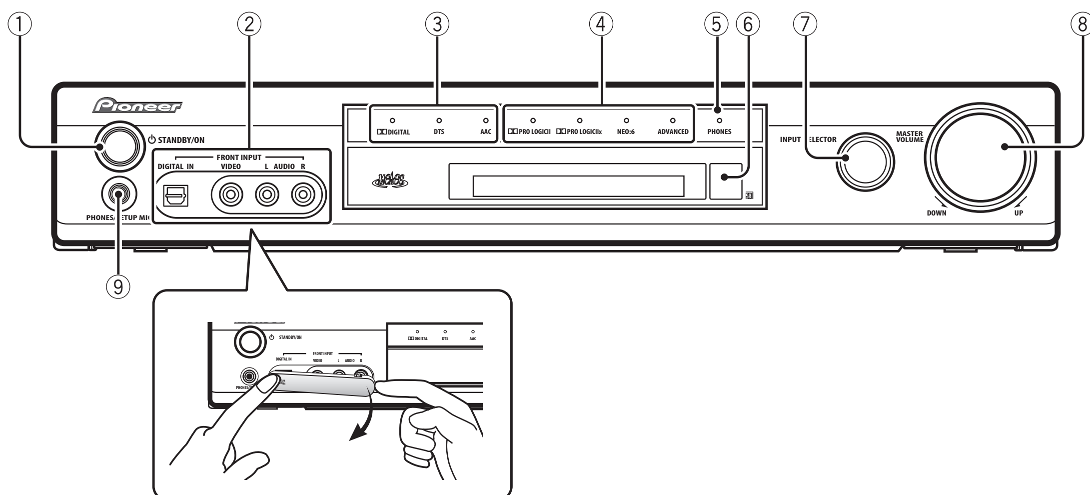
- 本機は使用中に熱を発生します。インテリア用の布などをかぶせた状態でお使いにならないでください。



- 本機使用中または使用直後は上面が熱くなっていることがありますのでご注意ください。

各部の名称とはたらき

本体前面部



①⏻**STANDBY/ON ボタン**
本機の電源を ON/OFF します。

②**FRONT INPUT(本体前面入力)端子(17ページ)**
ポータブルDVD プレーヤー、ゲーム機 、ビデオカメラなどを接続します。光デジタル音声出力端子の付いている機器とデジタル接続することもできます。接続するときはカバーを外します。

③**DDDIGITAL インジケーター**
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。
DTS インジケーター
DTS 信号を入力しているときに点灯します。
AAC インジケーター
MPEG-2 AAC 信号を入力しているときに点灯します。

④**DDPRO LOGICIIインジケーター(27、29ページ)**
ドルビープロロジックII 処理されているときに点灯します。
DDPRO LOGICIIx インジケーター(27、29 ページ)
ドルビープロロジックIIx 処理されているときに点灯します。
NEO:6 インジケーター(27、29 ページ)
2ch信号をNeo:6処理しているときに点灯します。
ADVANCED インジケーター(28 ～ 29 ページ)
「アドバンスドサラウンド」モードを選んでいるときに点灯します。

⑤**PHONES インジケーター(28、35 ページ)**
「ヘッドホンサラウンド」モードを選んでいるときに点灯します。

⑥**リモコン受光部**
リモコン信号を受光します。リモコンの操作範囲については 11 ページをご覧ください。

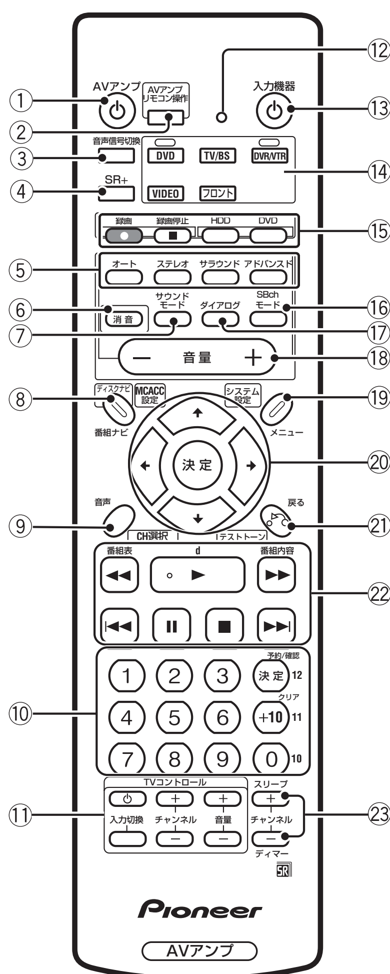
⑦**INPUT SELECTOR(入力切換つまみ)(21 ページ)**
入力機器を選びます。

⑧**MASTER VOLUME(音量調節つまみ)(21 ページ)**
本機の音量を調節します。

⑨**PHONES(ヘッドホン)/SETUP MIC端子(25、35 ページ)**
ヘッドホンプラグを差し込む端子です。プラグを差し込んでいるときは、スピーカーから音が出ません。また、MCACC設定を行うときに設定用マイクを差し込む端子です。詳しくは『MCACC設定(オート)用マイクを接続する』(25ページ)をご覧ください。

各部の名称とはたらき

リモコン



![pencil] **メモ**

▼ 他機器の操作について

- 操作モードを切り換えることによって、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することができます(49 ページ)。
- 工場出荷時に設定されている機器以外を操作するときはプリセットコードを設定してください(50 ページ)。また、細かいボタンの割り当てについては 51 ページをご覧ください。

▼ リモコンに表記されている文字の色分けについて

- **緑**＝本機の機能を示しています(操作モードがAVアンプのときに使うことができます)。
- **赤**＝DVDプレーヤーの機能を示しています(使うときは操作モードを切り換えます)。
- **黒**＝テレビなどの機能を示しています(使うときは操作モードを切り換えます)。
- **紫**＝DVDレコーダーの機能を示しています(使うときは操作モードを切り換えます)。

①**AV アンプ⏻ボタン**
本機の電源を ON/OFF(スタンバイ状態)にします。

②**AV アンプリモコン操作ボタン**
リモコンの操作モードを AV アンプ(本機)に切り換えます。本機の操作を行うときに必ず押します。

③**音声信号切換(23、31 ページ)**
音声入力信号をデジタル(DIG)、アナログ(ANA)またはオート(AUTO= デジタル優先)のいずれかに切り換えます。

④**SR+ ボタン(19、46 ページ)**
本機と接続したプラズマディスプレイとの連動モードを切り換えます。

⑤**オート(29 ページ)**
入力信号の音声フォーマットに合わせて、ステレオ(2ch 再生)モードと 5.1ch(6.1ch)デコードモードを自動で切り換え、ソフトに忠実な再生を行います。

ステレオ(29 ページ)
「ステレオ(2ch 再生)」モードに切り換えます。

サラウンド(29 ページ)
マルチチャンネル音声で収録されているソフトはそのまま再生します。2ch 音声で収録されているソフトはドルビープロロジック IIx および Neo:6 の技術によってサラウンド再生します。5 種類のモードから選択することができます。

アドバンスド(29 ページ)
パイオニアオリジナルサラウンド(アドバンスドサラウンド)の種類を切り換えます。

⑥**消音ボタン(34 ページ)**
音を一時的に消します。もう一度押すと消音機能は解除され元の音量に戻ります。

⑦**サウンドモード(30 ページ)**
「サウンド」モードの種類を切り換えます。

⑧**ディスクナビ /MCACC 設定(24 ページ)**
リモコンの操作モードが AV アンプのとき MCACC 設定モードに切り換わります。

⑨**CH 選択(35 ページ)**
リモコンの操作モードがAVアンプのとき手動(テストトーンを出力しない)でスピーカーを切り換えて、各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

⑩**数字 / 決定ボタン**
CD のトラック、DVD のチャプター、テレビのチャンネルなどを選ぶときに使います。テレビのチャンネルは、0 ボタンが 10 チャンネル、+10 ボタンが 11 チャンネル、決定ボタンが 12 チャンネルに割り当てられています。

⑪**TV コントロールボタン(49 ～ 50 ページ)**
リモコンがテレビ以外の操作モードになっていてもテレビを操作することができます。TV コントロールボタンでお使いのテレビを操作するにはプリセットコードを設定します(49 ～ 50 ページ)。

⏻
テレビの電源を ON/OFF(スタンバイ状態)にします。

入力切換
テレビの入力を切り換えます。

チャンネル＋ / －
テレビのチャンネルを切り換えます。

音量＋ / －
テレビの音量を調節します。

⑫**LED 表示**
リモコンから信号を発信しているときに点灯します。

⑬**入力機器⏻ボタン**
⑭ 入力選択ボタンで選んだ入力機器の電源を ON/OFF(スタンバイ状態)にします。

⑭ **入力選択ボタン(49 ～ 50 ページ)**
本機の入力とリモコンの操作モードを同時に切り換えます。

⑮ **録画**
パイオニア製の DVD レコーダーで録画をスタートします。

録画停止
パイオニア製のDVDレコーダーの録画を停止します。

HDD
パイオニア製のハードディスク内蔵 DVD レコーダーでハードディスクを選択します。

DVD
パイオニア製のハードディスク内蔵 DVD レコーダーで DVD を選択します。

⑯**SBch モード(32 ページ)**
リモコンの操作モードが AV アンプのときサラウンドバックチャンネルのON/AUTO/OFFを切り換えます。また、サラウンドバックチャンネルを無し(－)に設定しているときは、バーチャルサラウンドバックモードの ON/AUTO/OFF を切り換えます。

⑰ **ダイアログボタン(31 ページ)**
ダイアログエンハンスメントモードの ON/OFF を切り換えます。

⑱**音量－ / ＋ボタン(21、35、36 ページ)**
本機の音量を調節します。

⑲**システム設定ボタン(40 ページ)**
リモコンの操作モードが AV アンプのときシステム設定モードに切り換わります。

⑳**↑ ↓ ← →**
各種設定で項目を選びます。

決定ボタン
各種設定で項目を決定します。

㉑**テストトーン(36 ページ)**
リモコンの操作モードが AV アンプのときテストトーンを出力して各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

㉒**他機器基本操作ボタン(51 ページ)**
他機器(DVD プレーヤーなど)を操作します。

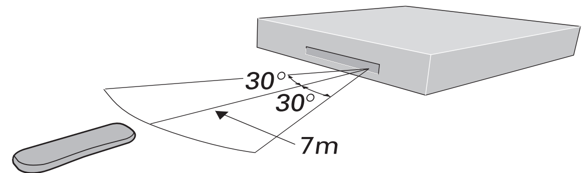
㉓**チャンネル＋ / －ボタン**
BS デジタルチューナー、ビデオ機器などのチャンネルを切り換えます。

スリープボタン(34 ページ)
スリープタイマーを設定します。90分、60分、30分、または OFF に設定することができます。

ディマーボタン(34 ページ)
表示部の明るさを 4 段階で調整します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンを本体前面部のリモコン受光部に向けてください。下記の範囲内で操作することができます。



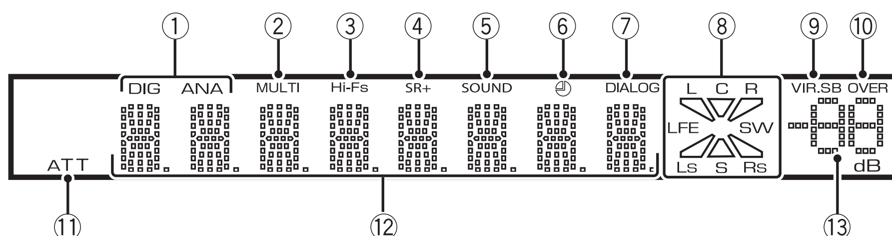
注意

本体後面部のコントロール入力端子に他の機器が接続されているときは、リモコンを本機に向けても操作はできません。リモコンを向ける機器のコントロール入力端子には何も接続しないでください(13 ページ)。

メモ

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコンを使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

本体表示窓



①**DIG インジケーター(23、31 ページ)**
デジタル音声信号を再生しているときに点灯します。
ANA インジケーター(23、31 ページ)
アナログ音声信号を再生しているときに点灯します。

②**MULTI インジケーター(23、31 ページ)**
DVD 5.1ch音声入力信号を選んでいるときに点灯します。

③**Hi-Fs インジケーター**
96/88.2kHz 以上の PCM 音声信号が入力されているときに点灯します。

④**SR+ インジケーター(47 ページ)**
接続しているプラズマディスプレイとの連動モードが「SR+ ON」に設定されているときに点灯します。

⑤**SOUND インジケーター(30 ページ)**
サウンドモードのいずれかを選択しているときに点灯します。

⑥**インジケーター(34 ページ)**
スリープタイマーを設定すると点灯します。

⑦**DIALOG インジケーター(31 ページ)**
ダイアログエンハンスメントモードがONのときに点灯します。

⑧**フォーマットインジケーター(22 ページ)**
「音が出ているスピーカー」と「本機が入力(再生)している圧縮音声のフォーマット」の両方を表示します。

⑨**バーチャルサラウンドバックインジケーター(32 ページ)**
バーチャルサラウンドバックモードがONのときに点灯します。

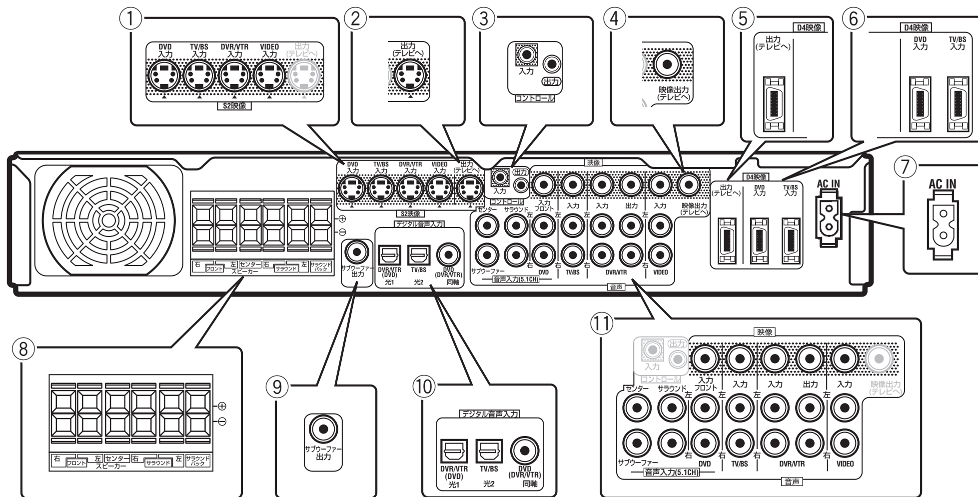
⑩**OVER インジケーター**
アナログ音声信号の入力レベルが高すぎるときに点灯します。点灯するときは『インプットアッテネータの設定』(45 ページ)をご覧ください。

⑪**ATT**
インプットアッテネータが ON のときに点灯します。

⑫**キャラクター表示部**
選択されているファンクションなどを表示します。

⑬**VOLUME(音量レベル)表示部(21 ページ)**
現在の音量レベルを表示します。音量レベルは、電源をOFFにしても保持されます。「－－－dB」は最小レベル、「0dB」は最大レベルを表します。

本体後面部



①**S2 映像入力端子**
⑪に接続した機器のS2映像出力端子と接続することができます。S2映像入力端子は⑪の映像入力端子と連動します。(DVR/VTR S2映像出力端子はありません)。

②**S2 映像出力端子**
① に入力された映像信号を出力します。

③**コントロール入出力端子(20 ページ)**
コントロール入出力端子の付いたパイオニア製品と接続することができます。

④**映像出力端子**
⑪および本体前面部の映像入力端子に入力された信号を出力します。

⑤**D4 映像出力端子**
⑥ に入力された映像信号を出力します。

⑥**D4 映像入力端子**
⑪ に接続した機器の D 映像出力端子と接続することができます。

⑦**AC インレット(AC IN)(20 ページ)**
電源コードを接続します。

⑧**スピーカー端子(18 ページ)**
スピーカーと接続します。

⑨**サブウーファー出力端子(18 ページ)**
パワーアンプ内蔵型サブウーファーと接続します。

⑩ **デジタル音声入力端子(14 ～ 17、19 ページ)**
『同軸デジタル端子と光デジタル端子(光1)の入力切換設定』(45ページ)で入力機器を変更することができます。

光デジタル音声入力端子(光 1/ 光 2)：
光デジタル音声出力端子を持つデジタル機器と接続することができます。

同軸デジタル音声入力端子(同軸)：
同軸デジタル音声出力端子を持つデジタル機器と接続することができます。

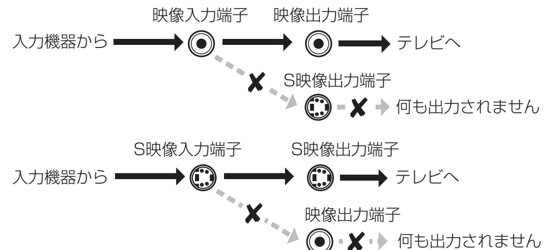
⑪**音声入力(5.1ch)端子(15 ページ)**
5.1chアナログ音声出力端子の付いているDVDプレーヤーなどと接続することができます。フロント左 / 右端子は DVD 入力端子と共用です。

アナログ音声 / 映像入出力端子(14 ～ 17ページ)
アナログ音声のライン入力と映像入力端子です。DVR/VTR のみ出力端子があります。

メモ

▼ 入力機器とテレビの両方に S 映像端子 /D 映像端子が付いているときは、S映像端子/D映像端子で接続すると、より鮮明な映像を再生することができます(D映像端子どうしの接続が最も良い画質となります)。 ただし、入力機器 ➡ 本機 ➡ テレビの接続には同じ種類のケーブルをお使いいただく必要があります(詳しくは下図をご覧ください)。

例：S 映像端子で接続するとき



▼ テレビによっては、S 映像接続をすると、信号の有り無しにかかわらず常に S 映像入力が優先され、通常の映像入力信号を見ることができないことがあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

接続



機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

DVDプレーヤーとテレビを接続する

テレビ

音声出力　左　右　映像入力

DVDプレーヤーとテレビの両方にS映像端子/D映像端子が付いているときは、市販のS映像ケーブル/D映像ケーブルを使って接続すると、より鮮明な映像を楽しむことができます。13ページの**メモ**もあわせてご覧ください。

市販の音声ケーブル

市販の映像ケーブル

ドルビーデジタルまたはDTS音声を再生するには、デジタル音声端子の接続が必要です。また、光デジタル音声端子に接続するときは、入力を切り換える必要があります(45ページ)。

本機を通してテレビ放送を楽しみたいときは、市販のアナログ音声ケーブルでアナログ音声端子を接続してください。

付属の同軸デジタルケーブル

市販の光デジタルケーブル

- ケーブルは急な角度に折り曲げないでください。
- 端子の向きを合わせて差し込んでください。

市販の映像ケーブル

市販の音声ケーブル

以下のときは、市販のアナログ音声ケーブルでアナログ音声端子の接続が必要となります。
- DVDプレーヤーにデジタル音声出力端子がないとき。
- 聴きたい音声がDVDプレーヤーの光デジタル音声出力端子から出力できないとき。
- DVDプレーヤーの音声をDVR/VTR出力端子から出力(録音)したいとき。
- DVDまたはLDプレーヤーからのカラオケ用のマイク音声を出力したいとき。

同軸　光　デジタル音声出力

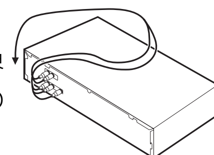
映像出力

左　右　音声出力(2ch)

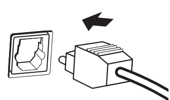
DVDプレーヤー(DV-578Aなど)

注意

- **接続コードの状態について**
  右図のように、本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスからの磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合があります。接続コードはこのような状態にしないでください。

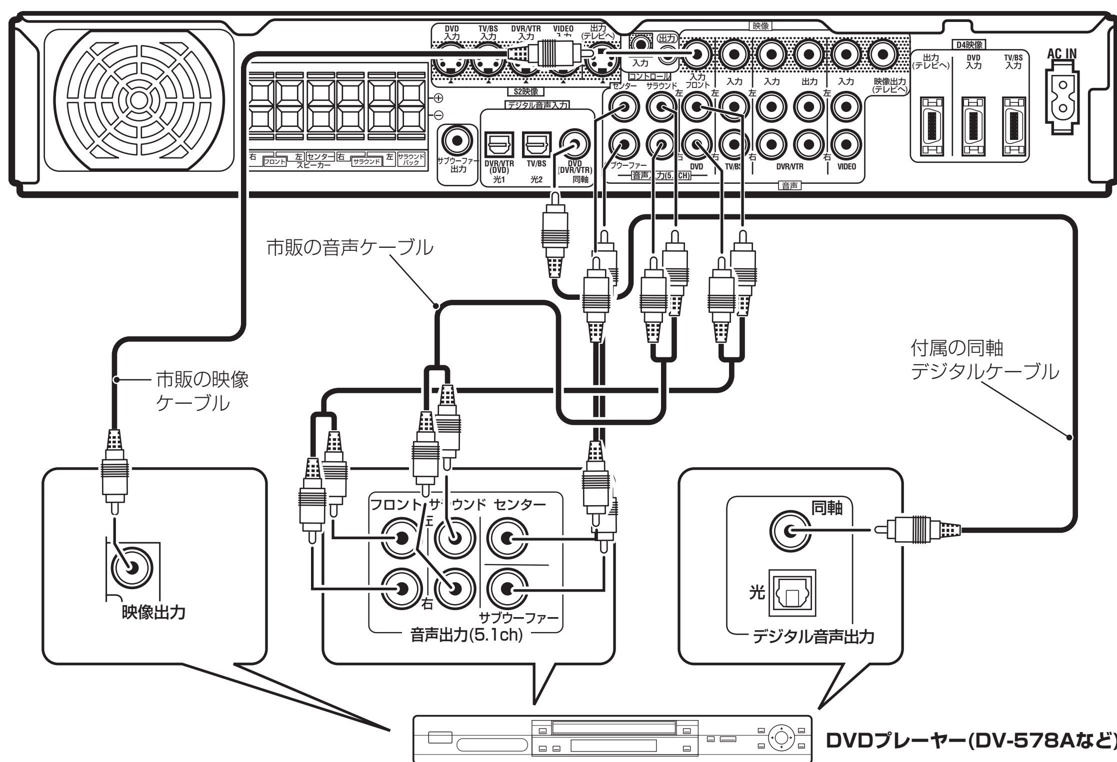


- **光デジタルケーブルを差し込むときの注意**



接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。

5.1ch アナログ音声出力端子の付いている DVD プレーヤーと接続する

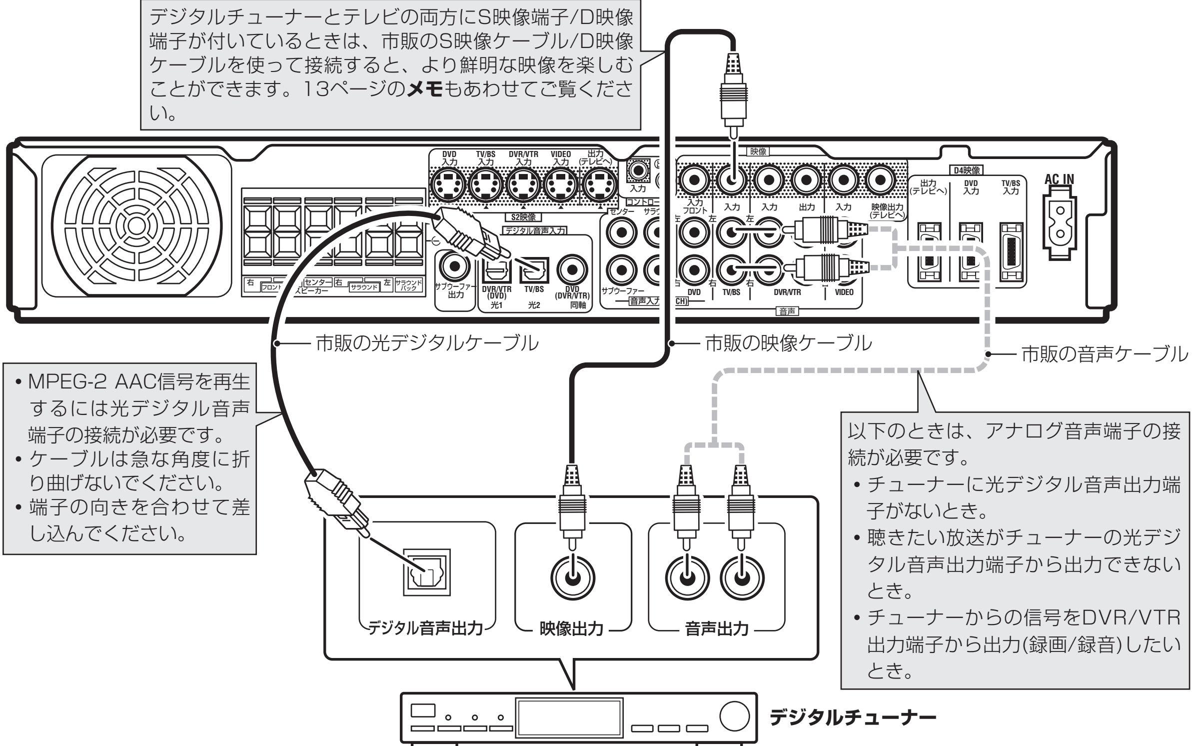


メモ

- 5.1ch アナログ音声接続して再生するときは、音声入力信号を「DVD5.1ch」に設定してください(23、31 ページ)。
- 5.1chアナログ音声接続してマルチチャンネル再生するときは、DVDプレーヤーの音声出力が正しく設定されているか確認してください。詳しくは DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 5.1chアナログ音声接続で再生しているときはリスニングモードおよびサラウンドモードの操作はできません。

BS/CS/地上デジタルチューナーを接続する

デジタルチューナーのみを接続するとき



デジタルチューナー内蔵テレビを接続するとき

市販の光デジタルケーブル

市販の音声ケーブル

市販の映像ケーブル

• MPEG-2 AAC信号を再生するには光デジタル音声端子の接続が必要です。
• ケーブルは急な角度に折り曲げないでください。
• 端子の向きを合わせて差し込んでください。

以下のときは、アナログ音声端子の接続が必要です。
• テレビに光デジタル音声出力端子がないとき。
• 聴きたい放送が光デジタル音声出力端子から出力できないとき。
• テレビからの信号をDVR/VTR出力端子から出力(録音)したいとき。
• 本機を通して地上波放送などのアナログ音声を楽しみたいとき。(地上波放送の音声がデジタル出力されないとき)。

デジタル出力

左　右　映像

アナログ出力

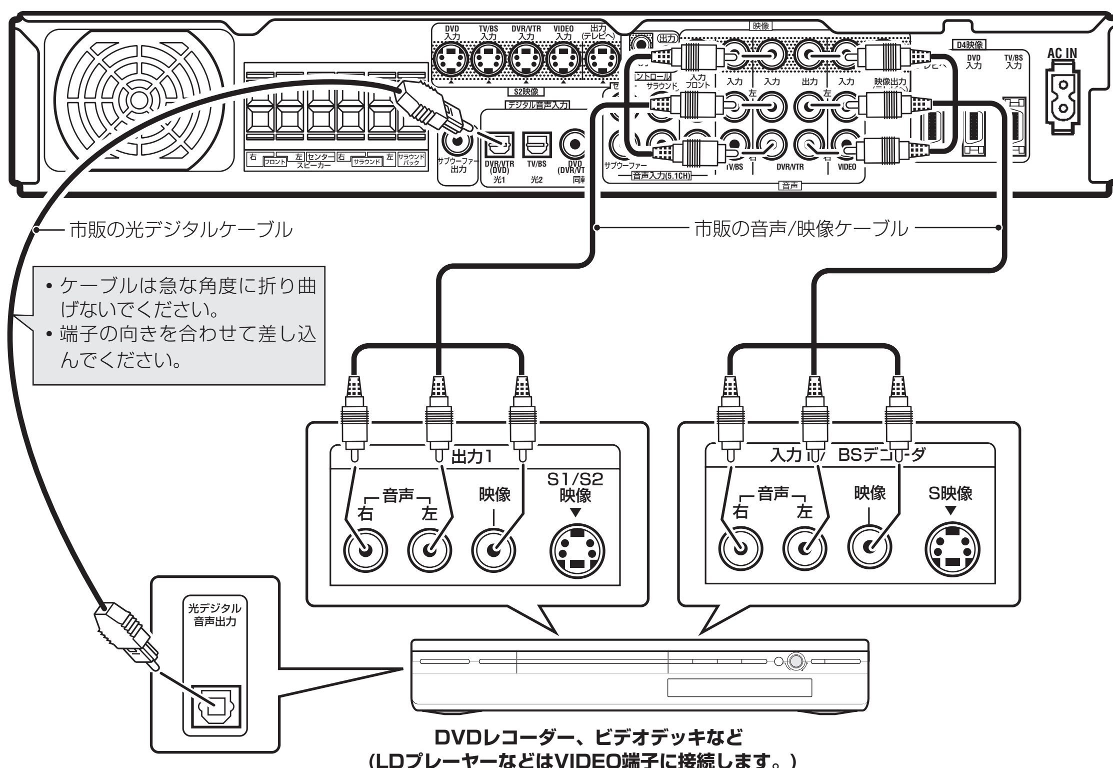
映像入力

デジタルチューナー
内蔵テレビ

メモ

▼ テレビによっては選んでいるチャンネルにかかわらず、光デジタル音声出力端子から常にデジタル放送の音声信号が出力されていることがあります。地上波放送などのアナログ音声を楽しむときは、音声入力信号をアナログ(ANA)に切り換えてください(23ページ)。

ビデオ機器(DVDレコーダー、LDプレーヤー、ビデオデッキ、ビデオカメラなど)を接続する



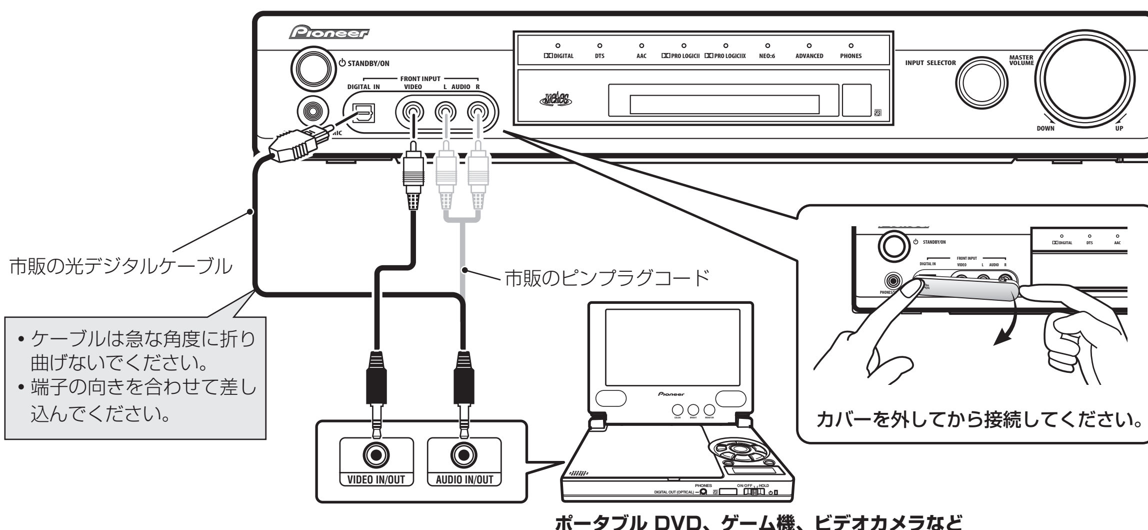
DVDレコーダー、ビデオデッキなど
(LDプレーヤーなどはVIDEO端子に接続します。)

メモ

▼ DVR/VTR 出力端子に接続して録画するとき

入力機器と本機をデジタルケーブルやS映像ケーブルまたはD映像ケーブルだけしか接続していないときは、必ず映像/音声ケーブルも接続してください。デジタルケーブルやS映像ケーブルまたはD映像ケーブルの音声/映像はDVR/VTR出力端子からは出力されません(本機の各機能(リスニングモードなど)の効果は反映されません)。

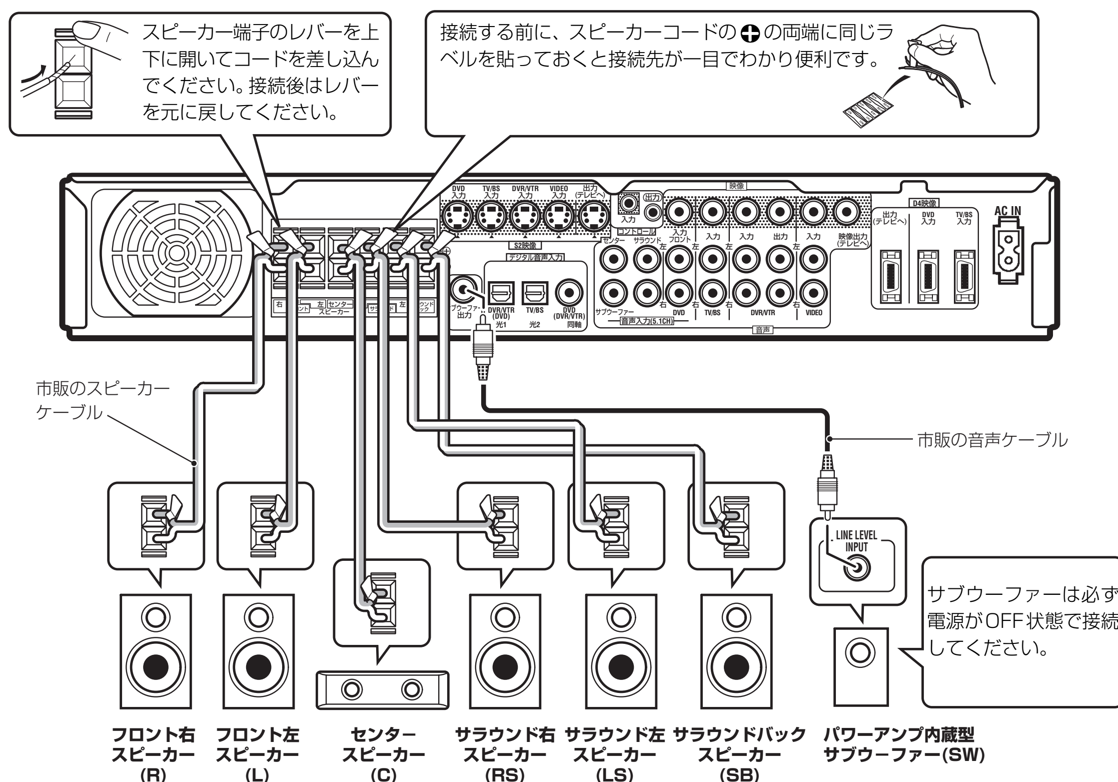
本体前面入力端子に接続する



ポータブル DVD、ゲーム機、ビデオカメラなど

スピーカーを接続する

- 公称インピーダンスが 6Ω ～ 16Ω のスピーカーをお使いください。
- 本機とスピーカーの ⊕ 端子どうし、および ⊖ 端子どうしを正しく接続してください。



注意

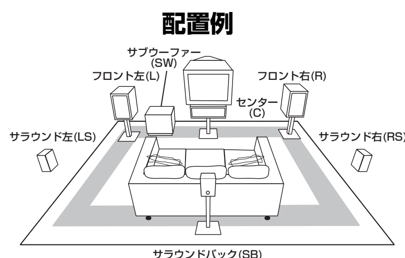
- スピーカーコードの芯線をねじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してください。はみ出した線が隣りのスピーカーのスピーカーコードや本体後面部の金属部分に接触(ショート)して、本機の電源が ON にならないことがあります。また、故障の原因となることがあります。
- センタースピーカーをテレビの上に置くときは適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動によりスピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

メモ

▼ スピーカーの配置について

- 左右のスピーカーはテレビから同じ距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビの色ズレなどを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でないときは、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に設置することをお勧めします。
- サラウンドスピーカーは視聴位置のやや斜め後方、サラウンドバックチャンネルは視聴位置の真後ろに設置することをお勧めします。また、耳の高さより上に設置すると効果的です。
- サブウーファーは前方に設置して、フロントスピーカーまでの距離と同じ距離になる位置に設置することをお勧めします。

配置例



パイオニアのプラズマディスプレイと接続する

SR＋に対応したプラズマディスプレイ(2003年以降に発売されたパイオニア製のみ)をSR＋ケーブルで接続することでシステム動作を実現します。プラズマディスプレイの画面を見ながらシステム設定(37〜47ページ)、MCACC設定(24〜26ページ)、および音量やサウンドモードの確認ができます。また、本機の入力を切り換えると、プラズマディスプレイの入力が自動で切り換わり、プラズマディスプレイからの音量を0にすることができます。本機とプラズマディスプレイをシステム動作させるには、下記の接続および設定(46〜47ページ)が必要となります。

プラズマディスプレイ
コントロール出力
メディアレシーバー
INPUT2へ
INPUT3へ
付属のSR+ケーブル
市販の映像ケーブル
市販のD映像ケーブル
映像出力端子へ
デジタル音声出力(光)
D映像出力端子へ
DVDレコーダー
DVDプレーヤー(DV-578Aなど)
デジタル音声出力
光
同軸
デジタル出力
フロント サラウンド センター
左
右
サブウーファー
音声出力(5.1ch)
付属の同軸デジタルケーブル
市販の光デジタルケーブル
AC IN

注意

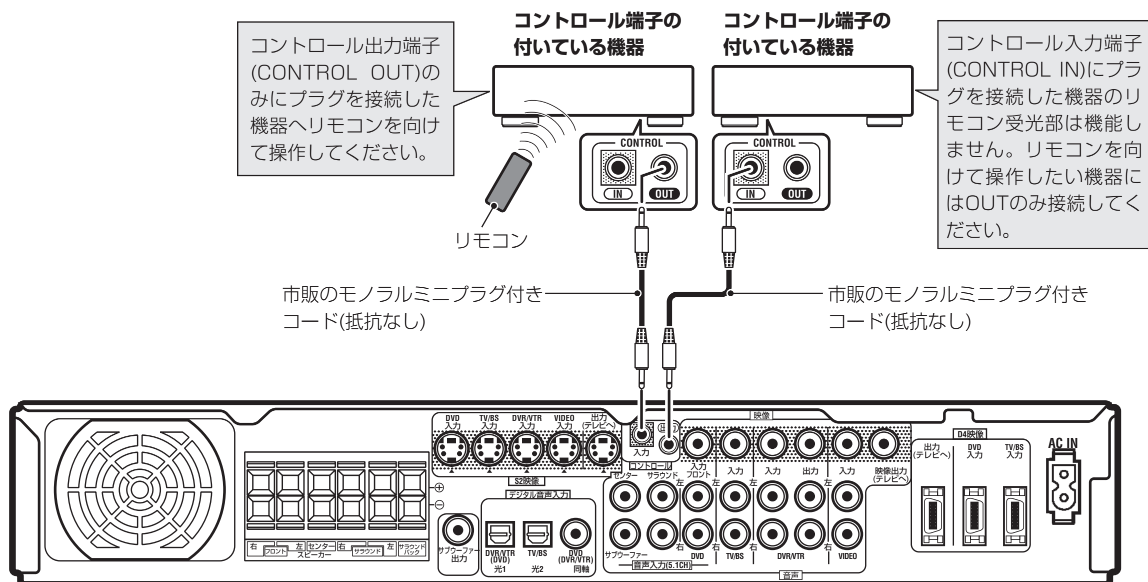
◆ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。

メモ

▼ DVDレコーダーおよびDVDプレーヤーの映像端子はプラズマディスプレイと接続してください。詳しくはプラズマディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

コントロール端子の付いている機器と接続する

コントロール端子の付いたパイオニア機器と接続すると、本機(または他機)のリモコンで接続した複数の機器を操作することができます(システムコントロール)。コントロール入出力端子を接続すると、リモコン受光部がない機器やリモコン受光部が信号を受けられない場所に設置した機器も操作することができます。

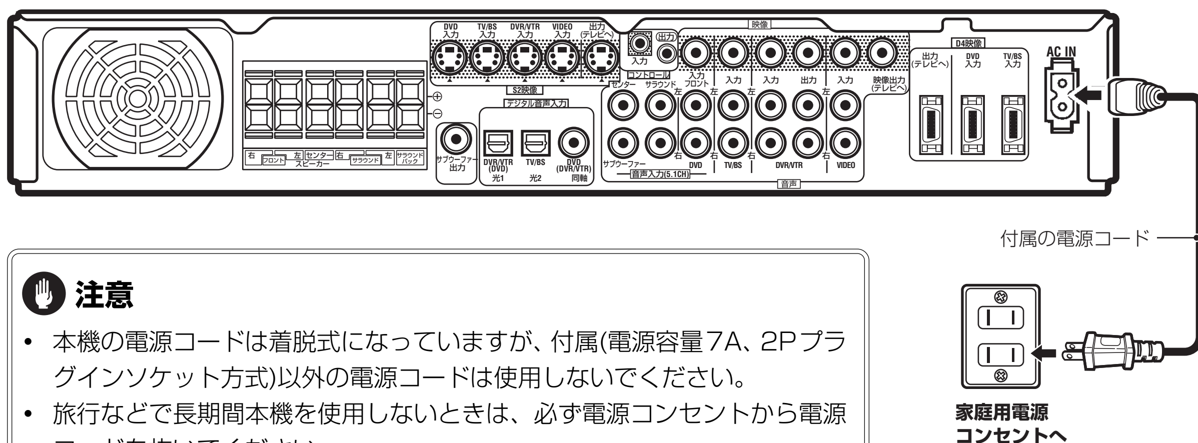


注意

- 接続には市販のモノラルミニプラグ付きコード(抵抗なし)を使用してください。
- コントロール端子の接続をするときは、必ず音声ケーブルまたは映像ケーブルも接続してください。光デジタルケーブルの接続だけでは、システムコントロールは正しく動作しません。

電源コードを接続する

すべての接続が終了してから、付属の電源コードで本機のACインレット(AC IN)と壁の電源コンセントを接続してください。

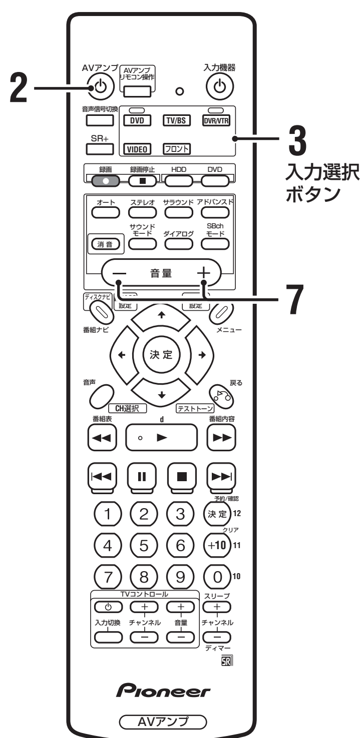


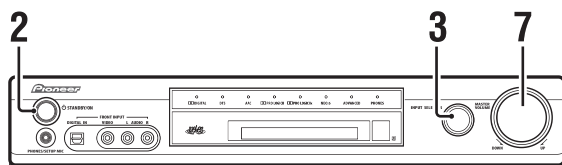
注意

- 本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属(電源容量7A、2Pプラグインソケット方式)以外の電源コードは使用しないでください。
- 旅行などで長期間本機を使用しないときは、必ず電源コンセントから電源コードを抜いてください。

基本的な使いかた

再生する(基本再生)





1 テレビ、入力機器(DVD プレーヤーなど)、サブウーファーの電源を入れる

2 本機の電源を入れる

リモコン



本体



- ⏻ AV アンプボタンを押します。
- 表示部に入力機器の名前(DVD)などが表示されます。



3 入力を選ぶ

リモコン



本体



入力選択ボタンで選びます。本体の INPUT SELECTOR でも切り換えることができます。



4 テレビの入力を切り換える

本機からの出力映像がテレビ画面に映し出されるように入力を切り換えてください(テレビ放送を見るときは不要です)。

5 入力機器の設定をする

DVD プレーヤーなどでは、デジタル音声出力の設定が必要な場合があります。詳しくは『入力機器の設定を確認する』(22 ページ)をご覧ください。

6 入力機器の再生を開始する

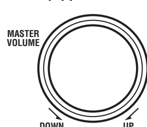
各インジケーターが点灯します。

7 音量を調節する

リモコン



本体



- 音量－ / ＋ボタンで調節します。
- [－－－](最小)~[0dB](最大)の間で調節します。
- 音が出ないときは、『音が出ないスピーカーがある。』(別添のホームシアター入門ＳＴＥＰ３　困ったとき <Q&A>）をご覧ください。

メモ

▼ テストトーン、チャンネルレベル、または MCACC 設定で各スピーカーの音量やチャンネルレベルを調整したとき、音量の最大値が[0dB]にならないことがあります。

入力機器の設定を確認する

入力機器の以下の項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。入力機器または再生するソフトの取扱説明書をご覧になり確認してください。

① 入力機器のデジタル音声出力の設定

入力機器側でデジタル音声出力の設定ができるときは、以下の音声信号が出力されるように設定してください。『音声記録方式』(53 ページ)もあわせてご覧ください。

- ドルビーデジタル
- DTS
- MPEG-2 AAC(BS デジタル)
- PCM 96 kHz/88.2 kHz (2 チャンネルステレオ信号)

② 再生するソフトの音声の確認

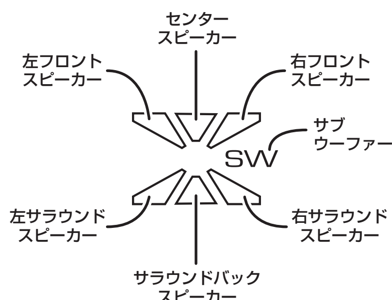
複数の音声が収録されているソフトや複数の音声で放送されているテレビ番組などでは、必要に応じて聴きたい音声を選んでください。選んだ音声の種類やリスニングモード(27 〜 29 ページ)によって音の出るスピーカーが異なります。

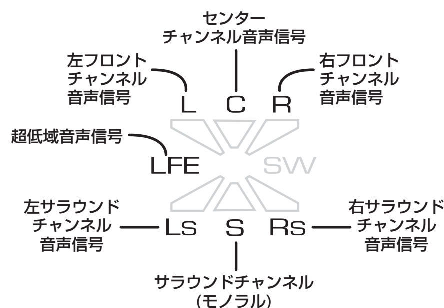
注意

入力機器や再生するソフトによって、2ch ステレオ(アナログ、PCM など)以外の音声信号を出力できないことがあります。2ch ステレオ音声信号を本機に入力してマルチチャンネルサラウンドで楽しむときは、リスニングモードを「サラウンド」などに切り換えてください(27 〜 29 ページ)。

フォーマットインジケーターについて

表示部のフォーマットインジケーターで「音が出る設定になっているスピーカー」や「圧縮音声信号が記録されているチャンネル」を確認することができます。





注意

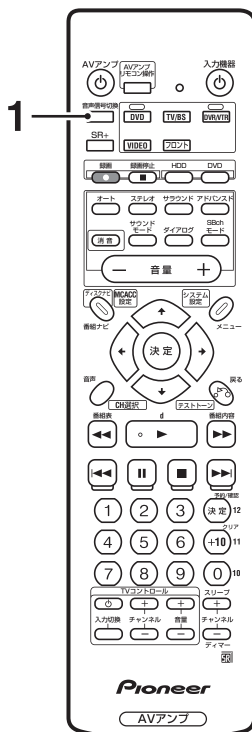
- サラウンドスピーカーの有り / 無しは、サラウンド 左スピーカーが接続されている / いないによって自動検出されます。サラウンドスピーカーは必ず左右とも接続してください。
- フロントスピーカーを接続していないときも左 / 右フロントスピーカーのインジケーターは点灯します。

メモ

▼「6.1 再生検出信号」の入ったソースが入力されると「L」「C」「R」「LFE」「Ls」「S」「Rs」の 7 つのインジケーターが点灯します。

音声入力信号(アナログとデジタル)を切り換える

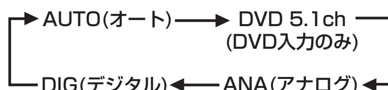
本機では音声入力信号(アナログとデジタル)を切り換えることができます。工場出荷時はオート(AUTO)に設定されています。



1 再生したい入力信号を選ぶ



- 音声入力切換ボタンで切り換えます。
- 押すたびに以下のように切り換わります。



- オート(AUTO)を選んだときは、デジタル(DIG)とアナログ(ANA)を自動的に切り換えます(ただし、デジタルが優先されます)。DVD 5.1chについては『DVD 5.1chアナログ入力を再生する』(31ページ)をご覧ください。

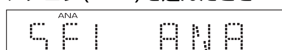
オート(AUTO)を選んだとき



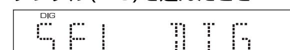
DVD 5.1chを選んだとき



アナログ(ANA)を選んだとき



デジタル(DIG)を選んだとき



デジタル音声接続をしているにもかかわらず、デジタル(DIG)を選ぶことができないときは、以下の原因が考えられます。 詳しくは入力機器の取扱説明書などをご覧ください。

- 入力機器の電源が入っていない。
- 入力機器のデジタル出力がオフに設定されている。
- 再生しているソフトがデジタル音声信号に対応していない。

メモ

▼ カラオケ機器のマイク音声、アナログ音声のみ収録されているDVDおよびLDの音声はデジタル出力できません。必ずアナログ(ANA)を選んでください。

▼ 本機は、ドルビーデジタル、PCM(32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz)、DTS、DTS 96/24およびMPEG-2 AACのデジタル音声信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル音声信号を出力するときは、アナログ音声接続して、アナログ(ANA)を選んでください。

▼ アナログ(ANA)を選んでいるときにDTS対応のソフトを再生すると、DVDプレーヤーによってはDTS音声信号がアナログ音声信号に変換されずにそのまま再生されてしまうためノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器とデジタル音声接続して(14ページ)、デジタル(DIG)を選んでください。

▼ DVDプレーヤーには、DTS音声信号を出力できない機種があります。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

MCACC(自動サラウンド解析)設定

MCACC 設定は、従来難しいとされてきた設定を自動かつ高精度に測定して設定することができます。スピーカーから出力されるテストトーンを付属のMCACC 設定用マイクで感知してリスニング環境を解析します。MCACC 設定は以下の流れで行われます。

初期測定(測定設備のチェック)
①暗騒音(部屋の騒音)の測定
②マイク感度の診断
③各 ch のスピーカー有り無し判定


初期測定結果確認へ

スピーカーの有り無し判定結果のユーザー確認(または修正)


音場補正へ

システム全体の解析測定
④スピーカーシステム
(各スピーカーの低域再生能力判定)
⑤スピーカーからの距離
(最適なディレイ値を解析)
⑥スピーカーの出力レベル
(各 ch の出力バランスを補正)

オートセットアップの完了
(所要時間は３～６分程度です。)

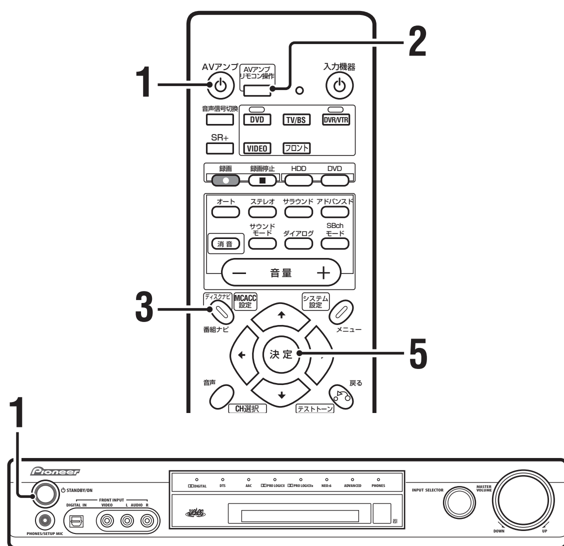

注意

- テストトーンは、やや大きな音ですので夜間の測定はご配慮ください。また、小さなお子様をリスニングルームに立ち入らせないようご注意ください。
- **ヘッドホンを差しているときは、MCACC設定を行わないでください。ヘッドホンが破損する恐れがあります。**

MCACC設定(オート)を開始する


メモ

- 測定を途中で解除したときは、MCACC 設定の測定結果は設定されません。
- 測定中は静かにしてください。測定中に騒音があると正確に測定できないことがあります。
- スピーカーとリスニングポジション(マイク)の間にある障害物を取り除いてください。
- サブウーファーを接続している場合は電源を入れて音量を適度に上げておいてください。
- 測定時は付属のマイクを TV モニターから遠ざけてください。



1 本機の電源を入れる



⏻ AV アンプボタンを押します。

2 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える



AVアンプリモコン操作ボタンを押します。

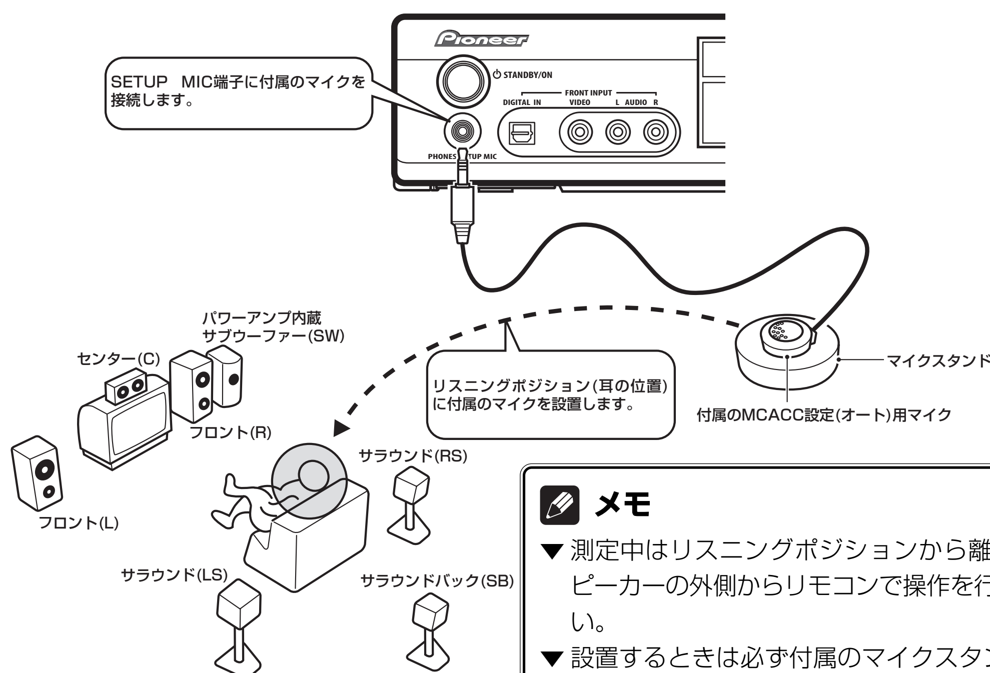
3. MCACC 設定ボタンを押す



表示部に「MIC IN」と点滅表示します。

MCACC設定(オート)用マイクを接続する

マイクを接続する前にリモコンのMCACC設定ボタンを押してMCACC設定モードに切り換えてください。 マイクを接続すると表示部に「MCACC」と５秒間点滅表示されます。



メモ

- ▼ 測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- ▼ 設置するときは必ず付属のマイクスタンドを使い、水平な台の上にのせてください。

4　マイクを接続する

自動的にボリュームが上がり、テストトーンによる初期測定(測定設備チェック)が開始されます。この自動測定は数十秒で終わります。しばらくお待ちください。

「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音（部屋の騒音）を測定中です
「ANALYZE」⇔「MIC」
：マイクの感度を診断中です
「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：各スピーカーの有り無しを判定中です。

注意

▼ 手順４でのエラー表示と対処法は以下のとおりです。

- 「NOISY!」⇒「GO NEXT?」
  測定環境がうるさすぎます。MCACC設定ボタンを押して測定を解除し、部屋を静かにしてもう一度はじめから設定をやり直してください。決定ボタンを押してそのまま測定を続けても同様のエラーメッセージが出ることがあります。
- 「ERR. MIC」
  マイクの本体か接続に問題があります。マイクの接続を再確認してください。
- 「ERR ～～」
  ～～部の表示は接続に問題のあるスピーカーを示しています。
  F ch ：フロント(L/Rのどちらかがおかしい)
  S ch ：サラウンド(L/Rのどちらかがおかしい)
  SW ：サブウーファー(接触不良または音量が上がっていない)
  何度も同じ結果が出るときは一度電源を切り、各々の接続を確認してください。

5 **表示部に表示されたスピーカー有り無し判定を確認(修正)する**



結果が合っているときは決定ボタンを押す



結果が間違っているときは↑ ↓で正しい設定に直したあと決定ボタンを押す

スピーカー有り無し判定の詳細については以下の表をご覧ください。

	F	C	S	SB	SW
2.0ch	○	−	−	−	−
2.1ch	○	−	−	−	○
3.0ch	○	○	−	−	−
3.1ch	○	○	−	−	○
4.0ch	○	−	○	−	−
4.1ch	○	−	○	−	○
5.0ch	○	○	○	−	−
5.1ch	○	○	○	−	○
6.0ch	○	○	○	○	−
6.1ch	○	○	○	○	○

F(フロントスピーカー)
C(センタースピーカー)
S(サラウンドスピーカー)
SB(サラウンドバックスピーカー)
SW(サブウーファー)

−(無し)
○(有り)

6 **補正用測定が開始される**

「ANALYZE」⇔「SP SIZE」
：各スピーカーの低域再生能力を判定中です
「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音（部屋の騒音）を測定中です（SW接続時のみ）
「ANALYZE」⇔「DISTANCE」
：最適なディレイ値を解析中です
「ANALYZE」⇔「LEVEL」
：各chの出力バランスを補正中です
これらの自動測定には3〜6分程度の時間がかかります。表示部に「COMPLETE」と表示されるまでしばらくお待ちください。

7 **「COMPLETE」→「RESUME」→「MIC OFF」と表示し自動測定を終了**

ボリュームが下がり通常動作に戻ります。

8 **マイクを抜く**

注意

▼ 手順5で設定を変更すると以下が表示されることがあります。
- 「SW VOL. UP」⇒「GO NEXT?」
  サブウーファーの音量を上げてから決定ボタンを押してください。
- 「SW VOL. DN」⇒「GO NEXT?」
  サブウーファーの音量を下げてから決定ボタンを押してください。

メモ

▼ MCACC設定が終了した時点で『システム設定』(37ページ)と『各スピーカーの音量を調整する』(36ページ)での設定内容はリセットされますのでご注意ください。
▼ MCACCによる測定結果は、システム設定(37ページ)およびCH選択(35ページ)で確認することができます。CH選択でチャンネルレベルを確認するときは、リスニングモードを「サラウンド」(29ページ)にしてください。システム設定では、その他の設定を確認できます。
▼ 同じスピーカーを接続していても設置環境の影響により、スピーカーの大小判定が一致しないことがあります。設定を変更したいときはシステム設定の『スピーカーの設定』(40ページ)を行ってください。
▼ サブウーファーまでの距離は、サブウーファー本体が持つ回路の遅延時間も含めて最適値を測定します。実際よりやや長めの距離が設定されていても修正する必要はありません。
▼ 設定後、スピーカーを追加および削除した場合や別のスピーカーと交換したときは、再度MCACC設定を行ってください。

いろいろな使いかた

リスニングモードの種類と効果について

本機では接続しているスピーカーの本数や再生するソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選ぶことができます（29ページ）。
「各入力ごと」、「ヘッドホンプラグを差している/いないとき」それぞれに独立してリスニングモードがメモリーされます(ヘッドホンプラグを差しているときは、「ステレオ」または「ヘッドホンサラウンド」のみ選ぶことができます)。
ただし、フロントスピーカーだけを接続しているときは、リスニングモードを切り換えることはできますが、実際はステレオモードで動作します。

オート (再生するソフトに忠実なリスニングモード)

オート(AUTO)
入力される音声のフォーマットに合わせて、再生するソフトに忠実なリスニングモードを自動的に選びます。2ch音声で収録されたCDなどは2chのまま、マルチチャンネル音声で収録された映画ソフトなどはマルチチャンネル音声のまま楽しむことができます。

サラウンド

2ch音声(ドルビーサラウンド、PCMなど)を入力しているとき、以下の5つから選ぶことができます。ただし、マルチチャンネル音声(5.1chサラウンドなど)を入力しているときは忠実にデコード(再生)して、表示部にデコード名称が表示されます。（サラウンドバックモードがOFFのときは**プロロジック IIx**ではなく**プロロジック II**となります）

- **ドルビープロロジック IIx ムービー(MOVIE)**
  6.1ch化します。映画ソフトの再生に適したモードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品を視聴するとより効果的です。ドルビーデジタルEXに迫るセパレーションや移動感などが得られます。
- **ドルビープロロジック IIx ミュージック(MUSIC)**
  6.1ch化します。音楽ソフトの再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたCDなどを再生するときに効果的です。サラウンドスピーカーは定位よりも包囲感を重視しています。
- **ドルビープロロジック(PRO LOGIC)**
  5.1ch化します。ビデオテープやTV放送など、ソースのクオリティを問わずお使いいただけます。従来のドルビープロロジックとほぼ同じ効果が得られます。
- **Neo:6 シネマ(CINEMA)**
  6.1ch化します。映画再生に適したモードで、2chを6.1chソースと同じような雰囲気でお楽しみいただけます。映画館特有の移動感をお楽しみいただけます。MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。
- **Neo:6 ミュージック(MUSIC)**
  6.1ch化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適したモードといえます。また、センターとサラウンド、サラウンドバックchから出力される音声が音場にナチュラルな広がり感を加えます。MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。

また、ドルビーデジタルのマルチチャンネル信号（5.1や6.1ch）を入力しているときは、サラウンドバックモードがONに設定されていれば、以下の2つのモードも選ぶことができます。

- **ドルビーデジタル EX(DOLBY EX)**
  マトリクス・デコードによりサラウンドバックch成分を生成します。最大6.1ch再生となり、定位感、移動感、臨場感がより向上します。
- **ドルビープロロジック IIx ミュージック(MUSIC)**
  6.1ch化します。音楽ソフトの再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたCDなどを再生するときに効果的です。サラウンドスピーカーは定位よりも包囲感を重視しています。

アドバンスドサラウンド(マルチチャンネルサラウンド再生)

パイオニアオリジナルのサラウンド効果を得ることができます。

- **アドバンスドムービー(ADV.MOVIE)**
  映画ソフトの再生に適したモードです。特にドルビーまたはDTSエンコードの映画作品を視聴するときにより効果的です。映画館で映画を楽しんでいる雰囲気を味わうことができます。
- **アドバンスドミュージック(ADV.MUSIC)**
  ほとんど球に近い理想の空間での反射音を再現します。宇宙空間に漂う未来のコンサートホールのイメージです。音楽ソフトやミュージカル系の映画ソフトの再生に効果的です。
- **TV サラウンド(TV SURR.)**
  テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル音声やステレオ音声をマルチチャンネル音声で再生します。古い映画などのモノラル放送をマルチチャンネル音声で視聴するときに効果的です。
- **スポーツ(SPORTS)**
  テレビのスポーツ中継などのモノラル放送をマルチチャンネル音声で視聴するときに効果的です。
- **ゲーム(GAME)**
  ゲームのスピード感や躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなど、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。
- **エキスパンデッド(EXPANDED)**
  

  マークの付いているビデオ、BS/CS 放送、またはドルビーサラウンドで収録されているDVDソフトなどを、あたかも5.1chサラウンドソフトを再生しているかのような効果的かつ立体的な音響空間を楽しむことができます。また、ドルビーデジタルやDTSなどの5.1chサラウンドソフトを再生しているときも、より一層広がりのあるサラウンド効果を得ることができます。
- **6-ch STEREO(6-STEREO)**
  標準のステレオ(2ch)音声を加工することなく6chで再生します。部屋のどの場所にいてもステレオ感を楽しむことができます。
- **バーチャル(VIRTUAL)**
  フロント2本のスピーカーのみでサラウンド感を楽しむためのモードです。仮想立体音響技術によりマルチチャンネルサラウンド再生の臨場感を再現します(スピーカーの設定や音声の種類によってはサブウーファーからも音が出ます)。

- **ヘッドホンサラウンド(PHONES SURROUND)**
  ヘッドホンで聴いているときに、仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生の臨場感を楽しむことができます(ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込んでいるときのみ選ぶことができます)。

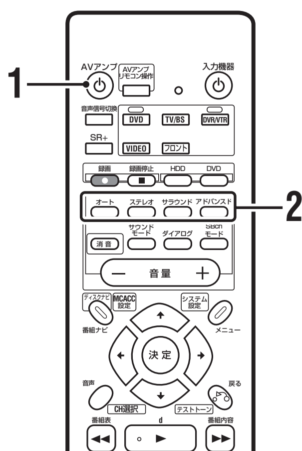
ステレオ (ステレオ再生)

- **ステレオ(STEREO)**
  あらゆる音声をステレオ再生(フロント2本のスピーカーのみによる再生)します。

メモ

▼『スピーカーの設定』(40～41ページ)、『サブウーファーの設定』(41ページ)またはソフトに収録されている音声の種類によって、再生するスピーカーが異なることがあります。

リスニングモードを選ぶ



1 本機の電源を入れる



⏻ AV アンプボタンを押します。

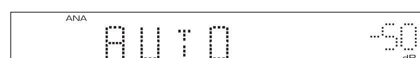
2 リスニングモードを選ぶ

選んだリスニングモードのインジケーターが点灯します。

「オート」を選ぶとき



- オートボタンを押します。



「ステレオ」を選ぶとき



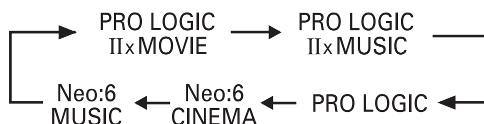
- ステレオボタンを押します。



「サラウンド」を選ぶとき



- サラウンドボタンを押します。
- 押すたびに以下のように切り換わります。

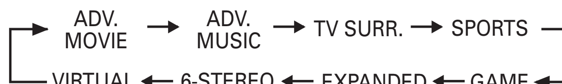


※ 再生するソフトがマルチチャンネル音声のときは、収録されている音声(Dolby Digital/DTS/MPEG-2 AAC)を忠実にデコード(再生)します。入力信号によってはいくつかのモードを選択できる場合もあります。

「アドバンスドサラウンド」を選ぶとき



- アドバンスドボタンを押します。
- 押すたびに以下のように切り換わります。



メモ

- ▼ 工場出荷時は「オート」に設定されています。ヘッドホンを差したときの工場出荷時の設定は「ステレオ」です。
- ▼「各入力」、「ヘッドホンプラグを差している/いないとき」それぞれに独立してリスニングモードがメモリーされます。
- ▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、「ステレオ」または「アドバンスドサラウンドの「ヘッドホンサラウンド」のみ選ぶことができます。
- ▼ 96kHz/88.2kHzリニアPCM音声を再生しているときは「ステレオ」のみ選ぶことができます。「ステレオ」以外を選んでいるときに96kHz/88.2kHzリニアPCM音声が入力されると、自動的に「ステレオ」に切り換わります。
- ▼ MPEG-2 AAC 音声を再生しているときは「Neo:6 MUSIC」および「Neo:6 CINEMA」を選ぶことはできません。
- ▼ DTS 96/24 音声を再生しているときはアドバンスドサラウンドを選ぶことはできません。
- ▼ ドルビーデジタルのマルチチャンネル信号を入力していて、サラウンドバックモードが ON のときにサラウンドボタンを押すと、DOLBY EX（ドルビーデジタル EX）と MUSIC（ドルビープロロジック IIx ミュージック）が切り換わります。

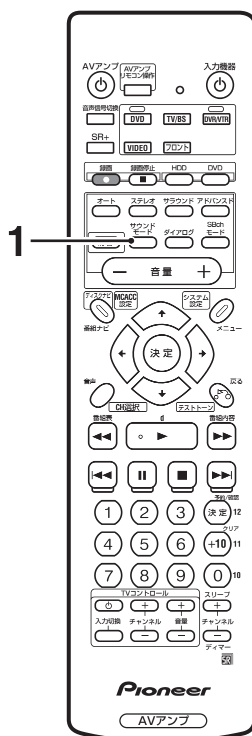
サウンドモードの種類と効果について

本機では、映画や音楽ソフトなどのあらゆる音声に対して、さまざまな音質を楽しむことができます。サウンドモードは各入力ごとに設定することができます。

サウンドモード(音質効果)

- **ミッドナイト(MIDNIGHT)**
  夜間など小音量で聴いていると、どうしても響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ミッドナイトリスニングモードをONにすると、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなく楽しむことができます(各入力ごとにON/OFFを設定できます)。
- **マナー(MANNER)**
  キンキンする高音や、ドンドン響く低音を和らげて再生します。高音が鋭くて耳につくときや、低音が大きすぎて不快なときなどに効果的です。
- **ブライト(BRIGHT)**
  2chソースを再生しているときに不足しがちな低域と高域を補正し、クリアなサウンドを再生します。
- **重低音(S. BASS)**
  低音のレベルを上げて迫力ある再生にします。
- **OFF**
  音質効果を付け加えません。

サウンドモードを選ぶ



1 サウンドモードを選ぶ



- サウンドモードボタンを押す
- 押すたび以下のように切り換わります。

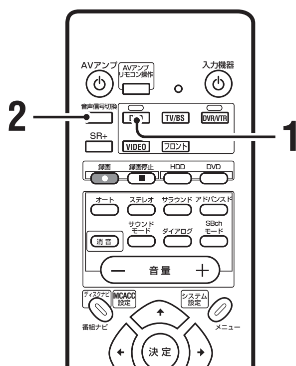


メモ

▼ 工場出荷時は「OFF」に設定されています。
▼「ミッドナイト」を選んでいるときに音量を調整すると、「ミッドナイト」の音場効果も自動調整されます。
▼ DTS 96/24音声を再生中はOFFになります。

DVD 5.1ch アナログ入力を再生する

DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーや外部デコーダーなどの5.1chアナログ音声出力端子の付いている機器を接続して、5.1chサラウンド再生を楽しむことができます。DVD 5.1chアナログ入力の再生はDVDの入力を選んでいるときのみ操作することができます。



1 入力をDVDに切り換える



リモコン切換ボタンのDVDを押します。

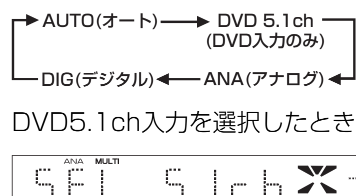
2 音声入力信号を「DVD5.1ch」に切り換える



- 音声信号切換ボタンを押します。押すたびに以下のように切り換わります。

AUTO(オート) → DVD 5.1ch (DVD入力のみ) → ANA(アナログ) → DIG(デジタル) → AUTO(オート)

DVD5.1ch入力を選択したとき

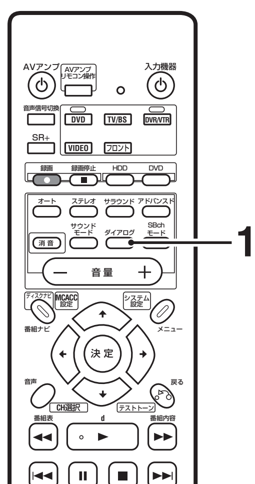


メモ

- ▼ 音声入力信号が「DVD 5.1ch」のときは、リスニングモードおよびサウンドモードなどの操作はできません。
- ▼ 音声入力信号が「DVD 5.1ch」のときは、音量レベルと各チャンネルレベル以外の設定を本機で行うことはできません。

セリフやボーカルを際立たせる(ダイアログエンハンスメントモード)

セリフやボーカルを際立たせ、定位感を調整することですっきりとした聴きとりやすい音場になります。



1 ダイアログエンハンスメントモードをONにする



- ダイアログボタンを押します。
- 表示部のDIALOGインジケーターが点灯します。



メモ

- ▼ 工場出荷時はOFFに設定されています。
- ▼ 96kHz/88.2kHzリニアPCM、DTS 96/24またはMPEG-2 AAC音声を入力しているときはOFFになります。

サラウンドバックチャンネル信号の ON/AUTO/OFF を設定する

本機ではサラウンドバックスピーカーの設定(37 ページ)に応じて「サラウンドバックモード」と「バーチャルサラウンドバックモード」の 2 つの機能が自動的に切り換わります。
サラウンドバックスピーカーを無し(－)に設定しているときは、サラウンド信号を処理することで仮想のサラウンドバック ch(バーチャルサラウンドバック)音声を作り出し、5 本のスピーカーでも 6.1ch 再生のような効果が楽しめます。お好みに応じてサラウンドバック ch 信号出力の ON/AUTO/OFF を選択してください。

ON　：(バーチャル)サラウンドバック信号を出力し、最大 6.1ch での再生を行います。
AUTO：入力ソースやリスニングモードに応じてサラウンドバック ch が自動的に ON/OFF します。
OFF　：(バーチャル)サラウンドバック ch 信号は出力されません。

入力信号の種類やリスニングモードにより出力の状態は変化しますので、サラウンドバックモードについての詳細は下表をご覧ください。

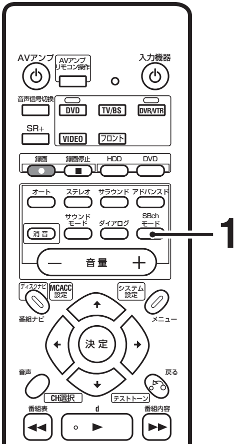
入力信号	サラウンドバックモード	リスニングモード				
		オート	サラウンド			アドバンスドサラウンド(バーチャルを除く)
				PRO LOGIC IIx MOVIE/MUSIC	Neo:6	
ドルビーデジタルサラウンドEX/DTS-ES(6.1ch検出信号につき)	AUTO	○	○	–	–	○
	ON					
ドルビーデジタル5.1ch	AUTO	×	×	×	–	○
	ON	○	○	○		
ドルビーデジタル/DTS MPEG-2 AAC(4.1chなど)	AUTO	×	×	–	–	○
	ON	○	○			
MPEG-2 AAC (2chステレオ)	AUTO	×	–	○	–	○
	ON					
PCM 96kHz/88.1kHz (2chステレオ)	AUTO	×	–	–	–	–
	ON					
ドルビーデジタル/DTS 上記以外のPCM/アナログ(2chステレオ)	AUTO	×	–	○	○	○
	ON					
DTS96/24	AUTO	×	×	–	–	–
	ON					
アナログ5.1ch入力	AUTO	–	–	–	–	–
	ON					

○：サラウンドバックスピーカーから音が出ます。
×：サラウンドバックスピーカーから音が出ません。
–：リスニングモードを選択できません。

バーチャルサラウンドバックモードについての詳細は下表をご覧ください。

入力信号	バーチャルサラウンドバックモード	リスニングモード				
		オート	サラウンド			アドバンスドサラウンド(バーチャルを除く)
				PRO LOGIC II MOVIE/MUSIC, PRO LOGIC	Neo:6	
ドルビーデジタルサラウンドEX/DTS-ES(6.1ch検出信号につき)	AUTO	○	○	–	–	○
	ON					
ドルビーデジタル/DTS MPEG-2 AAC*(4.1/5.1chなど)	AUTO	×	×	–	–	○
	ON	○	○			
MPEG-2 AAC* (2chステレオ)	AUTO	×	–	×	–	○
	ON					
PCM 96kHz/88.1kHz (2chステレオ)	AUTO	×	–	–	–	–
	ON					
ドルビーデジタル/DTS 上記以外のPCM/アナログ(2chステレオ)	AUTO	×	–	×	○	○
	ON			○		
DTS96/24	AUTO	×	×	–	–	–
	ON					
アナログ5.1ch入力	AUTO	–	–	–	–	–
	ON					

* MPEG-2 AAC入力のときバーチャルサラウンドバックモードでは操作できません。

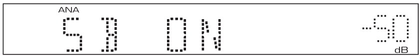


1 サラウンドバックモードを ON にする

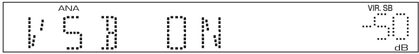


- SBch モードボタンを押します。
- 押すたびに ON/AUTO/OFF が切り換わります。

サラウンドバックモードの時



バーチャルサラウンドバックモードの時



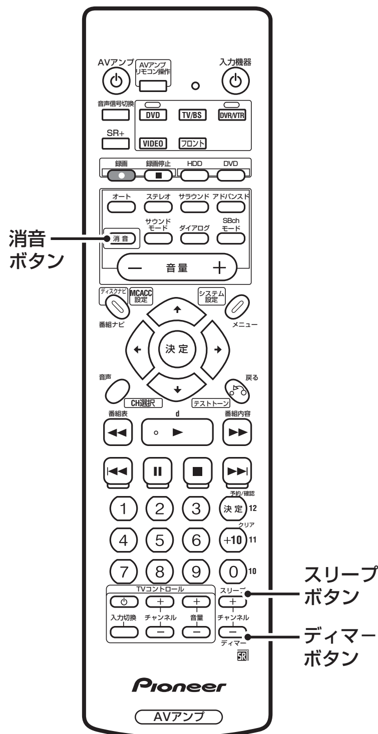
メモ

▼ 工場出荷時は以下のように設定されています。
- サラウンドバックスピーカーが接続されているときはサラウンドバックモードが「ON」。
- サラウンドバックスピーカーが接続されていないときはバーチャルサラウンドバックモードが「OFF」。

▼ サラウンドスピーカーが「無し(–)」に設定されているときは(バーチャル)サラウンドバックモードをON/AUTO に切り換えることはできません。

その他の機能

一時的に音を消す(ミュート)



1 音を消す(ミュートする)

消 音

- 消音ボタンを押します。
- 一時的に音が消えます。再度押すと元の音量に戻ります。音量－／＋ボタンでもミュートを解除することができます。

表示部の明るさを調整する(ディマー)

表示部の明るさを４段階に調整することができます。

1 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える



AV アンプリモコン操作ボタンを押します。

2 表示部の明るさを調整する

ディマー

- ディマーボタンを押します。
- 押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」「OFF」の４段階で切り換わります。

> **メモ**
> ▼ OFF に設定したときはインジケーターも消灯し、音量レベル表示のみがうっすらと点灯します。
> ▼ 設定した明るさにかかわらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、２秒後に元の明るさに戻ります。

スリープタイマーを設定する(スリープ)

時間を設定して自動的に電源を切ることができます。

1 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える



AV アンプリモコン操作ボタンを押します。

2 タイマーを設定する

スリープ

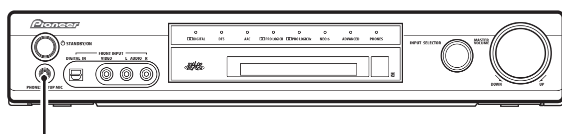
- スリープボタンを押します。
- スリープインジケーターが点灯します。

スリープタイマーインジケーター



- 押すたびに時間が「90 分後」「60 分後」「30 分後」「OFF」の４段階で切り換わります。

> **メモ**
> ▼ スリープタイマーを設定したあとにスリープボタンを１回押すと、現在の残り時間が表示されます。表示中に再度スリープボタンを押すと再設定されます。



ヘッドホン端子

ヘッドホンを使う

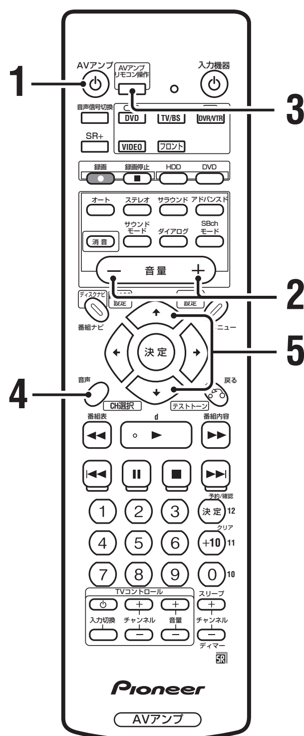
1 ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む

- 差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
- 「ステレオ」と「アドバンスドサラウンド」の「ヘッドホンサラウンド」以外のリスニングモードを選ぶことはできません。



特定のスピーカーの音量を調節する(チャンネルレベル)

音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながらスピーカーの音量を調節することができます。以下の手順で操作します。ここで設定を変更した時点で、自動設定やMCACC設定よりもこの設定値が優先されます。ただし、設定変更後、センタースピーカーまたはサブウーファーを追加(接続する)または削除(接続を外す)すると、設定が無効となり、次に電源を入れたときに再度自動的に設定されます。詳しくは『スピーカーの設定について』(37ページ)をご覧ください。



1 本機の電源を入れる

AVアンプ



⏻AV アンプボタンを押します。

2 音量を調節する



音量+/−ボタンでお好みの音量に調節します。

3 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える



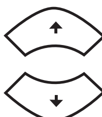
AVアンプリモコン操作ボタンを押します。

4 調節するスピーカーを切り換える

CH選択

- CH選択ボタンを押します。
- 押すたびにスピーカーが切り換わります。
- 選ぶことができるスピーカーは、『スピーカーの設定』(40〜41ページ)や「リスニングモード」(27〜28ページ)によって異なります。

5 スピーカーの音量を調節する



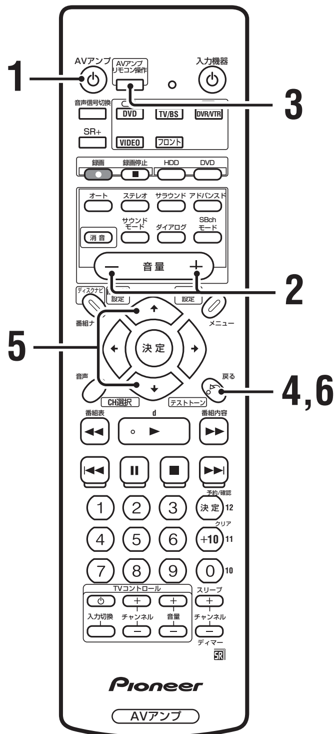
⬆/⬇ボタンで調節します。0.5dB単位で−10〜＋10dBの間で調節することができます。

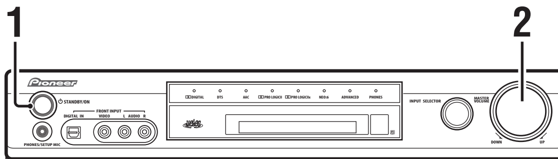
メモ

▼ CH 選択ボタンを押してスピーカーの音量調節モードに入ったとき、10 秒間何も操作が行われないとスピーカーの音量調節モードは自動的に終了します。レベル− / ＋ボタンで選択していたときは５秒後に自動で終了します。

各スピーカーの音量を調整する

すべてのスピーカーの音量のバランスを調整します。ただし各スピーカーの音量を調整したあとに『MCACC（自動サラウンド解析）設定』(24 ページ)を行うと設定内容は無効になります。





1　本機の電源を入れる



⏻ AV アンプボタンを押します。

2　音量を調節する

音量＋ / －ボタンでお好みの音量に調節します。

3　リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える

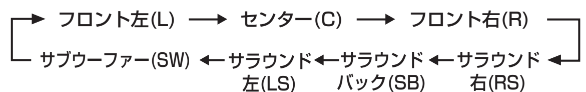


AV アンプリモコン操作ボタンを押します。

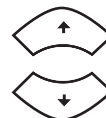
4　テストトーンを出力する



- テストトーンボタンを押します。
- 『スピーカーの設定』(40 ～ 41 ページ)で「有り」に設定されているスピーカーからのみ出力されます。
- ザーという音が以下の順番で出力されます。



5　テストトーンが出力されているスピーカーの音量を調整する



- ⬆/⬇ ボタンで調節します。
- 各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調節します。音量は±10dBの範囲で調節することができます。

6　テストトーンを止める



- テストトーンボタンを押します。
- 音量の調節が終了します。

メモ

▼ 工場出荷時の各スピーカーの音量は0dBに設定されています。
▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いため実際の音量より小さく聞こえます。
▼ サブウーファーの音量は音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながら、適切な値に調節してください。
▼ サブウーファーの音量はできるだけサブウーファー側で調節してください。本機での音量調節は補助としてお使いください。
▼ 96/88.2kHz リニア PCM または DTS 96/24 音声再生しているとき、および DVD5.1 入力を選んでいるときはテストトーンを調整することができません。

システム設定

必要に応じて項目を選び、各種設定および調整を行ってください。

スピーカーの自動設定について

本機は、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーおよびサブウーファーが接続されている/いないを自動で検出して、各スピーカーの設定を8つの組み合わせから自動で選びます(以下の表をご覧ください)。
ただし、『スピーカーの設定』(40～41ページ)を変更すると、次回からは変更後の設定が優先されます。変更後にセンタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーを追加(接続する)または削除(接続を外す)したときは、電源をONしたときに再度自動でスピーカーの設定を行い、ご自分で行った設定は無効となります。

サブウーファー	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー
有り(ON)	小(S)	小(S)	小(S)	小(S)
			無し(－)	無し(－)
		無し(－)	小(S)	小(S)
			無し(－)	無し(－)
無し(OFF)	大(L)	小(S)	小(S)	小(S)
			無し(－)	無し(－)
		無し(－)	小(S)	小(S)
			無し(－)	無し(－)

※サラウンドスピーカーは、サラウンド左スピーカーを接続している/いないによって検出されます。

スピーカーの設定について

お好みに合わせて下記の表のように組み合わせて設定を変更することができます。

フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
小(S)	小(S)/無し(－)	小(S)	小(S)/無し(－)	SUBWF 200Hz SUBWF 150Hz SUBWF 100Hz
		無し(－)	無し(－)	
大(L)	大(L)/小(S)/無し(－)	大(L)	大(L)/小(S)/無し(－)	SUBWF 200Hz SUBWF 150Hz SUBWF 100Hz SUBWF PLS OFF(－－－)
		小(S)	小(S)/無し(－)	
		無し(－)	無し(－)	

システム設定

フロント/センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーの設定(➡40ページ)

スピーカーの有り / 無しおよび低音域を再生する / しないを設定します。

※フロントスピーカーは必ず接続してください。

大(L)　：低音域(100Hz以下)を再生する能力が十分あるスピーカーを接続しているときに選びます。目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約 12cm 以上です。

小(S)　：小型のスピーカーを接続して、低音域を他のスピーカーやサブウーファーで再生するときに選びます。
目安はコーンサイズ(振動板の口径)が約 12cm 未満です。

無し(−)　：接続していないときに選びます。無し(−)に設定されているスピーカーの音声は、他のスピーカーで再生されます。

※フロントスピーカーを無し(−)に設定することはできません。

サブウーファーの設定(➡41ページ)

サブウーファー(低音域を専門に受け持つスピーカー)の有り/無しおよび何Hz以下の低音域を再生するかを設定します。

SUBWF 200 /150/100Hz　：LFE成分(超低域信号成分)と「スピーカーの設定」で小(S)に設定したスピーカーの低音域が出力されます。表示される数字(周波数200/150/100Hz)以下の低音域を再生します

SUBWF PLS　：サブウーファーから常に音を出したいときに選びます。LFE成分(超低域信号成分)と「スピーカーの設定」で大(LARGE)に設定したスピーカーの低音域が出力されます。

OFF(−−−)　：サブウーファーを接続していないときに選びます。
低音域は他のスピーカーで再生されます。

「フロントスピーカーの設定」でフロントスピーカーを小(S)に設定していると、サブウーファーはON(SUBWF 100Hz、SUBWF 150Hz、SUBWF 200Hzのいずれか)に固定されます。OFF や PLS を選ぶことはできません。また、サブウーファーを接続しないときはフロントスピーカーを大(L)に設定してください。大(L)に設定しないと低音が損なわれます。

LFEアッテネータの設定(➡42ページ)

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分(超低域信号成分)の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまうときに、その信号レベルをアッテネート(減衰)する量を設定することができます。

0 dB　：収録されているレベルのまま再生します。
10 dB　：レベルを10dBアッテネート(減衰)します。
LFE OFF　：LFE成分の音が出なくなります。

スピーカーまでの距離の設定について

スピーカーおよびサブウーファーまでの距離の設定(➡43ページ)

リスニングポジション(視聴位置)からフロント左右/センター/サラウンド左右/サラウンドバックスピーカーおよびサブウーファーまでの距離を設定します。
設定後に『MCACC 設定』(24 ページ)を行うと、MCACC 設定の設定値が優先されます。
それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

その他のシステム設定の項目について

ダイナミックレンジコントロールの設定(➡44ページ)

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語です。「どのくらい小さな音」から「どのくらい大きな音」までを正確に(小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに)再生できるかを数値(dB)で表したものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を小さくして映画を楽しむときなどにダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなります。

OFF　：ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。

MAX　：ダイナミックレンジを最も圧縮します。

MID　：ダイナミックレンジを少し圧縮します。

メモ

▼ この機能は、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトにのみの効果があります。他のソフトを小音量で楽しむときは「ミッドナイト」モード(30ページ)が効果的です。

デュアルモノの設定(➡44ページ)

モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号のことを1+1デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は、以下のようなMPEG-2 AACやドルビーデジタルの1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- **BSデジタル放送のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送など**
  ステレオの二カ国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- **二カ国語放送などをDVDレコーダーのVRモードで録画したもの**
  ただし、録画モードによってはデュアルモノラルと異なるフォーマットになります(詳しくはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください)。

ch1　：チャンネル1の音声のみを再生するとき選びます。

ch2　：チャンネル2の音声のみを再生するとき選びます。

L.c1 R.c2　：チャンネル1/チャンネル2の音声をそれぞれ左/右のフロントスピーカーから分けて再生するとき選びます。

インプットアッテネータの設定(➡45ページ)

入力信号のレベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまうときは、この設定をONにすると入力信号のレベルをアッテネート(減衰)することができます(アナログ入力信号にのみ有効)。

同軸デジタル端子と光デジタル端子(光1)の入力切換設定(➡45ページ)

工場出荷時は、同軸デジタル入力(同軸)＝DVD、光デジタル入力1(光1)＝DVR/VTRに設定されています。光デジタル入力2(光2)はTV/BSに固定されています。工場出荷時と同じ接続(本体後面部の表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変更する必要はありません。

工場出荷時
同軸デジタル入力(同軸)＝DVD
光デジタル入力1(光1)＝DVR/VTR



同軸デジタル入力端子をDVR/VTRに設定したとき
同軸デジタル入力(同軸)＝DVR/VTR
光デジタル入力1(光1)＝DVD

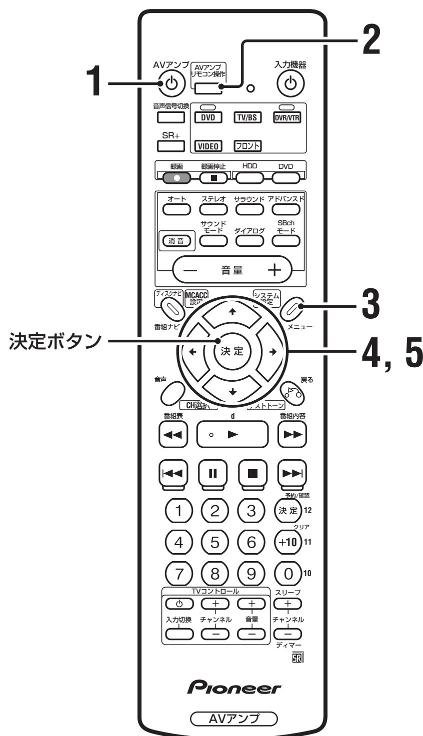
システム設定の各項目を設定する

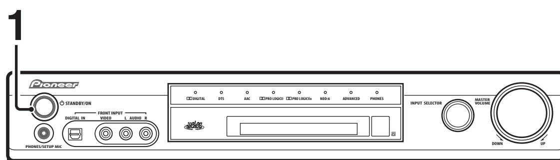
設定する前に

- ▼ 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- ▼ 他の項目を続けて設定するときは設定を終了せず(決定を押さず)に各項目の手順 2 に進みます(41 ～ 45 ページ)。
- ▼ 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

スピーカーの設定

ここで設定を変更した時点で、自動設定やMCACC設定よりも設定値が優先されます。ただし、設定変更後、センタースピーカーまたはサブウーファーを追加(接続する)または削除(接続を外す)すると、設定が無効となり、次に電源を入れたときに再度自動的に設定されます。詳しくは『スピーカーの設定について』(37ページ)をご覧ください。





1 本機の電源を入れる



⏻ AV アンプボタンを押します。

2 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える



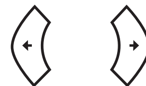
AVアンプリモコン操作ボタンを押します。

3 システム設定モードにする



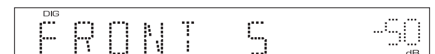
システム設定ボタンを押します。

4 各スピーカーの設定モードを選ぶ

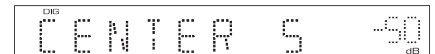


表示部に以下のように表示されます。

フロントスピーカーのとき



センタースピーカーのとき



サラウンドスピーカーのとき



サラウンドバックスピーカーのとき



設定する前に
- 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順 2 から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

5 スピーカーのサイズを選ぶ





- 押すたびに「S(SMALL)」、「L(LARGE)」または「－(無し)」が切り換わります(フロントスピーカーを「－(無し)」に設定することはできません)。
- 「大(L)/小(S)/無し(－)」の組み合わせには制限があります。たとえばフロントスピーカーを「小(S)」に設定すると他のスピーカーを「大(L)」にすることはできません。詳しくは 37 ページの表をご覧ください。

6 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

サブウーファーの設定

設定変更後にセンタースピーカーまたはサブウーファーを追加または削除する(接続するまたは接続を外す)と、設定が無効となり、次に電源を入れたときに再度自動的に設定されます。詳しくは『スピーカーの設定について』(37 ページ)をご覧ください。

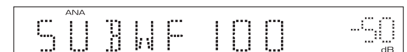
1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

2 サブウーファーの設定モードを選ぶ





押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。

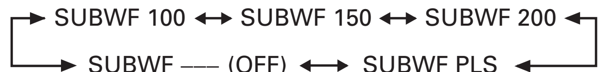


3 再生したい低域の周波数レベルを選ぶ





押すたびに以下のように切り換わります。



4 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ
▼ 各スピーカーの性能によりますが、すべて小さいスピーカーをお使いのときは、「200Hz」に設定することをお勧めします。
▼ フロントスピーカーを小(S)に設定しているときは、「PLS」および「OFF」を選択することはできません。
▼『スピーカーの設定』ですべてのスピーカーを大(L)に設定していると「150Hz」および「200Hz」を選択することはできません。
▼ ON(100Hz、150Hz、200Hz)に設定していてもスピーカーの設定、リスニングモードの選択または入力信号の種類によってサブウーファーから音が出ないことがあります。

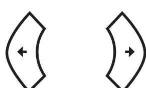
設定する前に

- 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順 2 から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

LFEアッテネータの設定

1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

2 LFE アッテネータの設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 アッテネート(減衰)量 を選ぶ





押すたびに以下のように切り換わります。



4 設定を終了する



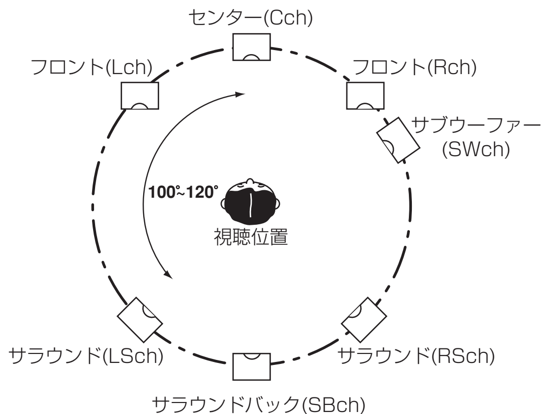
決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

設定する前に

- 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順 2 から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

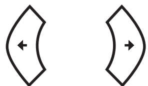
スピーカーおよびサブウーファーまでの距離の設定

ここで設定を変更した時点で、MCACC 設定よりも設定値が優先されます。



1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

2 各スピーカーの距離の設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。

フロント左スピーカーのとき

L 2.0 m -50 dB

センタースピーカーのとき

C 2.0 m -50 dB

フロント右スピーカーのとき

R 2.0 m -50 dB

サラウンド右スピーカーのとき

RS 2.0 m -50 dB

サラウンドバックスピーカーのとき

SB 2.0 m -50 dB

サラウンド左スピーカーのとき

LS 2.0 m -50 dB

サブウーファーのとき

SW 2.0 m -50 dB

3 各スピーカーまでの距離を設定する





0.1m ～ 9m を 0.1m 間隔で設定することができます。

4 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ

▼『スピーカーの設定』で、無し(－)に設定されているときスピーカーの距離を設定することはできません。

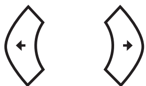
設定する前に

- 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順 2 から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

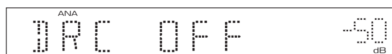
ダイナミックレンジコントロールの設定

1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

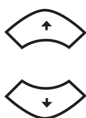
2 ダイナミックレンジコントロールの設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 OFF、MID、または MAX を選ぶ



押すたびに以下のように切り換わります。



4 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

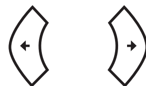
メモ

▼ 小音量で楽しむときは、「MAX」に設定することをお勧めします。
▼ この機能は、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトにのみの効果があります。

デュアルモノの設定

1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

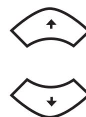
2 デュアルモノの設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 再生する音声チャンネルを選ぶ



押すたびに以下のように切り換わります。



4 設定を終了する



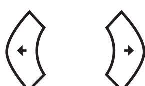
決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

設定する前に
- 各項目についての詳しい説明は 38 ～ 39 ページをご覧ください。
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順 2 から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

インプットアッテネータの設定

1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

2 インプットアッテネータの設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 ON または OFF を選ぶ





押すたびに以下のように切り換わります。

IN.ATT ON ←→ IN.ATT OFF

4 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

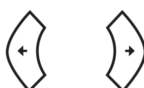
メモ
- ▼ インプットアッテネータはアナログ入力信号にのみ有効です。
- ▼「OVER インジケーター」(12 ページ)が点灯したときは「ON」に設定してください。
- ▼ 各入力ごとに設定することができます。現在選んでいる入力に対して設定が有効になります。

同軸デジタル端子と光デジタル端子(光1)の入力切換設定

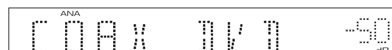
お手持ちのDVDプレーヤーの光デジタル端子を使用していないときは、この設定を行う必要はありません。

1 40 ページの手順 1 ～ 3 の操作を行う

2 同軸デジタル端子の入力切換モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 同軸デジタル端子の入力を切り換える





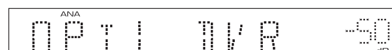
押すたびに以下のように切り換わります。

DVD (工場出荷時) ←→ DVR/VTR (入力切換後)

4 光デジタル 1 端子の入力を確認する



表示窓に現在の設定が表示されます。
↑ ↓で入力を切り換えることができます。ただし、同軸デジタル端子の設定も変更されます。



5 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ
- ▼ 同軸デジタル端子の入力を「DVR/VTR」に設定すると、光デジタル入力 1 端子の入力は自動的に「DVD」に変更されます。

システム設定

接続したプラズマディスプレイと本機を連動して動作させるための設定

SR＋ケーブルで本機とプラズマディスプレイを接続することで、以下のようなシステム動作を実現します。
- プラズマディスプレイの画面を見ながらシステム設定(37～47ページ)、MCACC設定(24ページ)、および音量やサウンドモードの確認ができます。
- 本機の入力を切り換えたときにプラズマディスプレイの入力も自動で切り換えることができます。
- 連動モードをONにしたときにプラズマディスプレイの音から本機の音へ自動で切り換えることができます。

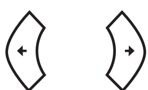
設定する前に
- **本機とプラズマディスプレイをSR＋ケーブルで接続して、本機とプラズマディスプレイの電源を入れてください。**
- 「他の項目から続けて」または「他の項目を続けて」設定するときは各項目の手順２から始めます。
- 20 秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

音量連動モードの設定

「ON」に設定すると連動モードを実行したとき（47ページ）、プラズマディスプレイの音量は0になり、本機の音へ切り換わります。

1 40 ページの手順１～３の操作を行う

2 音量連動モードの設定モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 ON または OFF を選ぶ



押すたびに以下のように切り換わります。



VOL C.ON ←→ VOL C.OFF

4 設定を終了する



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ

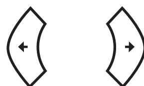
▼ 再度プラズマディスプレイの音を出したいときはプラズマディスプレイの音量を上げてください。

入力連動モードの設定

本機の音声入力(DVD、TV/BS、DVR/VTR、VIDEO、FRONT)とプラズマディスプレイの映像入力(ビデオ1、2、3、4、PC)に接続した機器の入力を合わせるための設定です。
この設定により、本機の入力を切り換えることでプラズマディスプレイの映像入力も自動で切り換わります。

1 40 ページの手順１～３の操作を行う

2 各入力の連動モードを選ぶ



押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。



3 接続に合わせてプラズマディスプレイの入力を切り換える



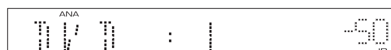


- 押すたびにプラズマディスプレイの入力が以下のように切り換わります。



（* –が選択されているときは入力連動しません）

たとえば、DVDプレーヤーを本機の同軸デジタル音声入力端子とプラズマディスプレイのビデオ入力１端子に接続したときは、「DVD」入力を「INPUT 1」に対応させます。



- 工場出荷時の本機の入力とプラズマディスプレイの入力は以下のように対応しています。

本機の入力	PDPの入力
DVD	INPUT 3
TV/BS	TV地上波
DVR/VTR	INPUT 2
VIDEO	INPUT 1
FRONT	INPUT 4

- プラズマディスプレイ(PDP)のBSデジタル放送を選ぶときは、本機の入力をTV/BSに切り換えてからPDPの入力を切り換えてください。

4 **他の入力を合わせたいときは手順2～3の操作を行う**

5 **設定を終了する**



決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

連動モードを実行する

本機とプラズマディスプレイがSR＋ケーブルで接続されていることを確認してください。

1 **プラズマディスプレイの電源を入れる**

2 **本機の電源を入れる**

AVアンプ



⏻ AVアンプボタンを押します。

3 **連動モードをONにする**

SR+



- SR+ボタンを押します。
- 表示窓に以下のように表示されます。



- 連動モードを解除したいときは再度SR+ボタンを押します。

4 **システム動作を確認する**

以下の操作を行うと本機とプラズマディスプレイが連動して動作します。

- 本機の入力を切り換えるとプラズマディスプレイの入力が切り換わります。
- 本機の音量を調整するとプラズマディスプレイの画面に音量値が5秒間表示されます。
- その他、本機の各種操作内容および設定状況を表示します。

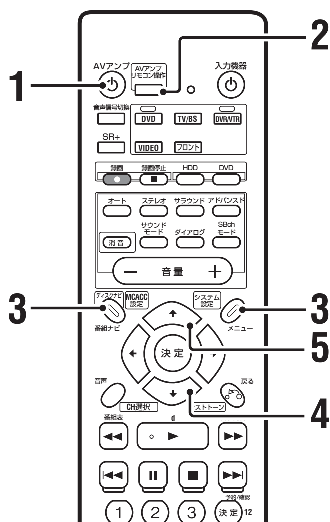
メモ

▼ プラズマディスプレイの電源がOFFのときまたは正しく接続されていないときは連動モードは働きません。
▼ 入力連動モードを設定していない入力のときは、プラズマディスプレイの画面は切り換わりません。
▼ プラズマディスプレイと本機に表示される音量値は異なります。また、プラズマディスプレイの画面に表示される音量値は目安です。
▼ SR+ケーブルを接続した状態でプラズマディスプレイの電源が切れているときはリモコンで本機の操作ができません。
▼ 連動モードをOFFにしても「音量連動モードの設定」と「入力連動モードの設定」は保持されます。

システム設定

すべての設定を工場出荷時に戻す

本機のすべての設定(リモコンのプリセットコード設定は除く)を工場出荷時に戻します。この操作を行う前に、必要に応じて現在の設定を覚え書きして残しておくことをお勧めします。工場出荷時の設定については『工場出荷時の設定一覧(本体)』(下記)をご覧ください。



1 本機をスタンバイ状態にする



電源がONのときにAVアンプボタンを押します。

2 リモコンの操作モードを AV アンプに切り換える

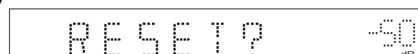


AV アンプリモコン操作ボタンを押します。

3 MCACC設定ボタンとシステム設定ボタンを同時に押す



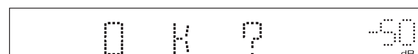
表示部に以下のように表示されます。



4 「RESET?」表示中(5 秒以内)に ⬇ ボタンを押す



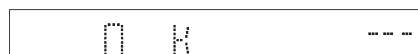
表示部に以下のように表示されます。



5 「OK?」表示中(5 秒以内)に ⬆ ボタンを押す



表示部に以下のように表示され、設定が工場出荷時に戻ります。電源が ON になります。



メモ

- ▼ 約 1 カ月以上、電源コードを電源コンセントから抜いた状態が続くと、設定が工場出荷時に戻ります。
- ▼ リモコンのプリセットコードを工場出荷時の設定に戻したいときは『リモコンの設定を工場出荷時に戻す』(52 ページ)をご覧ください。

工場出荷時の設定一覧(本体)

本機のすべての設定を工場出荷時に戻すと、以下のように設定されます(プリセットコードの設定を除く)。設定を工場出荷時に戻す操作については『すべての設定を工場出荷時に戻す』(上記)をご覧ください。なお、プリセットコードの工場出荷時の設定については『付属のリモコンで他機器を操作する(操作モードの切換)』(49ページ)をご覧ください。

設定項目	初期値	参照ページ
入力	DVD	21
音量	−−−(最小)	21
リスニングモード	オート (すべての入力)	27
リスニングモード (ヘッドホンを差しているとき)	ステレオ (すべての入力)	28
サウンドモード	OFF (すべての入力)	30
ダイアログエンハンスメント	OFF	31
サラウンドバックモード (接続しているとき)	ON	32
音声入力切換	オート	23
スピーカー / サブウーファーの 設定	自動設定	40 41

設定項目	初期値	参照ページ
LFE アッテネータ	0dB	42
各スピーカーまでの距離	2.0m	43
ダイナミックレンジ コントロール	OFF	44
デュアルモノの設定	ch1	44
インプットアッテネータ	OFF (すべての入力)	45
同軸デジタル端子の 入力切換設定	DVD	45
光デジタル端子 1 の 入力切換設定	DVR/VTR	45
チャンネルレベル	全チャンネル 0dB	35
表示部の明るさ調整(ディマー)	明るい	34
プラズマディスプレイ連動モード	OFF	47

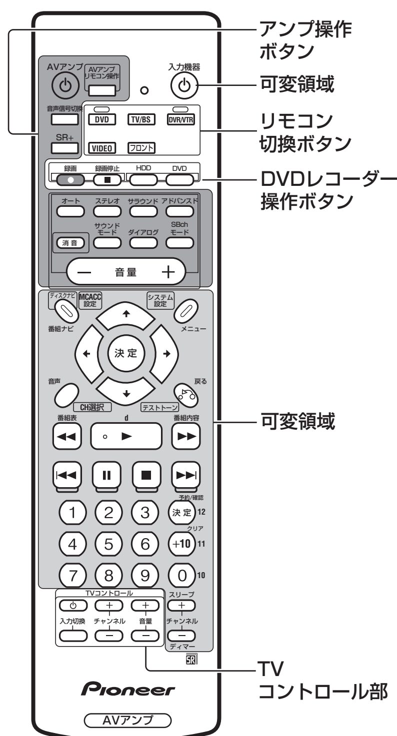
他機器の操作

付属のリモコンの操作モードを切り換えて、本機以外のパイオニア製品や他社の機器を操作することができます。

- 工場出荷時はリモコン切換ボタンにパイオニアの代表機器のプリセットコード(リモコンコード)が割り当てられています(以下の『プリセットコードの工場出荷時の設定一覧』をご覧ください)。
- その他の機器を操作したいときは『プリセットコードを設定する(リモコンコードの呼び出し)』(50ページ)をご覧になり、リモコンコードを呼び出してください。

付属のリモコンで他機器を操作する(操作モードの切換)

リモコンの操作モード(下図の可変領域のボタンの働き)を操作したい機器のモードに切り換えます。『各操作モードにおける各ボタンの割り当て』(51 ページ)もあわせてご覧ください。



1 操作したい機器を選ぶ



- リモコン切換ボタンを押します。
- 「操作モード」が選んだ機器に切り換わります。

※ 工場出荷時は本機の「入力」も同時に切り換わる設定になっています(たとえば、DVDボタンを押したときは操作モード＝DVD、入力＝DVDになります)。

プリセットコードの工場出荷時の設定一覧

リモコンの入力切換ボタン	プリセットコードが割り当てられている機器(パイオニア製品)	プリセットコード
DVD	DVD プレーヤー	020
TV/BS	BS デジタルチューナー内蔵テレビ	231
DVR/VTR	HDD 内蔵 DVD レコーダー	466
VIDEO	テレビ(地上波放送)	667
フロント	LD	100
TV コントロール	テレビ(地上波放送)	667

TV コントロール部について

TV コントロール部は操作モードの切り換えにかかわらず、いつでもプリセットコードを設定した機器を操作することができます。詳しくは『プリセットコードを設定する(リモコンコードの呼び出し)』(50ページ)をご覧ください。

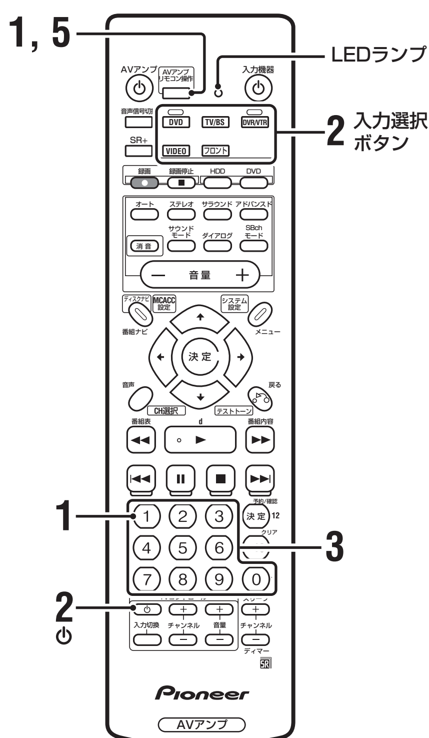
メモ

▼ 操作モードを切り換えても他機器を操作できないときは、『プリセットコードを設定する(リモコンコードの呼び出し)』(50ページ)をご覧ください。

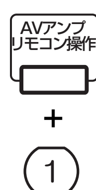
プリセットコードを設定する(リモコンコードの呼び出し)

リモコン切換ボタンに操作したい機器のプリセットコード(リモコンコード)を割り当てます。操作したい機器の電源をONにしてから以下の手順にお進みください。

工場出荷時に割り当てられているプリセットコードついては『プリセットコードの工場出荷時の設定一覧』(49ページ)をご覧ください。また、対応機器の種類とメーカーについては『プリセットコードリスト』(52ページ)をご覧ください。



1 プリセットコード設定モードにする



- AVアンプリモコン操作ボタンと数字(1)ボタンを同時に押します。
- LEDランプが点滅して、プリセットコード設定モードになります。
- プリセットコード設定モードを中止するには、AVアンプリモコン操作ボタンを押します。

2 設定したいボタンを選ぶ

入力選択ボタン

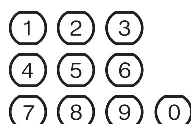


TVコントロールボタン



- 入力選択ボタンを押します。TVコントロールにプリセットしたいときはTVコントロールの⏻ボタンを押します。
- LEDランプが点灯に変わります。

3 操作したい機器にリモコンを向けて、その機器に該当する3桁のコードナンバー(52ページ)を入力する



- 数字(0〜9)ボタンを押して入力します。
- 正しいコードナンバーが入力されると、LEDランプが点滅します。
- 正しいコードナンバーが入力されると、電源ON/OFF信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がONまたはOFFに切り換わります。
- コードナンバーの入力の正誤にかかわらず手順2に戻ります。

4 他の機器を設定するときは手順2〜3を繰り返す

5 プリセットコード設定モードを終了する



- AVアンプリモコン操作ボタンを押します。
- リモコンが通常操作に戻ります。

メモ

- ▼ コードナンバーを入力したときに、リモコンを操作したい機器に向けていないと電源はON/OFFしません。
- ▼ STANDBY/ONモードがない機器については正しく設定ができていても、電源はON/OFFしません。設定後、機器が操作できるか確認してください。
- ▼ 操作できないときは、別のコードナンバーをお試しください。
- ▼ メーカーや製品によって、「操作できない」または「異なる動きをする」ボタンがあります。
- ▼ 1分間ボタン操作がないときは自動的に設定モードを終了します。
- ▼ 操作の途中でAVアンプリモコン操作ボタンを押すと設定モードを終了します。

各操作モードにおける各ボタンの割り当て

この表には代表的な動作を記載しています。
メーカーや製品によっては、「操作できない」または「異なる働きをする」場合もあります。
詳しくは実際に操作する機器の取扱い説明書をあわせてご覧ください。

	DVD/DVR/LD	DVD ゲーム機	VTR	テレビ/BS デジタルチューナー	SAT/CATV
入力機器 ⏻	電源 ON/OFF		電源 ON/OFF	電源 ON/OFF	電源 ON/OFF
►(d)	再生	START/ 再生	再生	d/ 再生 / 表示終了	d/ お好み
■	停止	× / 停止	停止	BS9/ 緑	信号切換
❚❚	一時停止	一時停止	一時停止	BS7/ 赤	TV/ ラジオ
►►	早送り	R2/ 早送り	早送り	番組情報 /3 桁	番組情報
◄◄	早戻し	L2/ 早戻し	早戻し	番組表	番組表
►►❙	次のチャプター	R1/ 次		BS11/ 黄	ページ / チャンネル +
❙◄◄	前のチャプター	L1/ 前		BS5/ 青	ページ / チャンネル −
番組ナビ	トップメニュー / ディスクナビ	□ /TITLE		BS メニュー / 番組ナビ	BS メニュー / 番組ナビ
メニュー	各種メニュー	△ /MENU		メニュー	メニュー
音声	音声切換	R3/BACK	TV/VIDEO 切換	二重音声	衛星切換 二重音声
戻る	戻る	L3/INFO		戻る	戻る
↑ ↓ ← →	十字キー	十字キー		十字キー	十字キー
決定	決定	○ /SELECT		決定	決定
1 − 9	チャプター(1 − 9)	チャプター(1 − 9)	チャンネル(1 − 9)	チャンネル(1 − 9)	チャンネル(1 − 9)
0(10)	チャプター(0/10)	チャプター(10)	チャンネル(10)	チャンネル(10)	チャンネル(10)
+10(11)	チャプター(+10) クリア		チャンネル(11) チャンネル(+10)	チャンネル(11) チャンネル(+10)	＊
チャンネル ＋	チャンネル ＋		チャンネル＋	チャンネル＋	ページ / チャンネル＋
チャンネル −	チャンネル −		チャンネル−	チャンネル−	ページ / チャンネル−
予約/確認 決定 12	入力決定(DVD) A/B 面切換(LD) 予約録画(DVR)	SELECT/ENTER	チャンネル(12) 入力決定	チャンネル(12) 入力決定	チャンネル(12) # 入力決定
録画と ► を同時押し			録画		
録画	録画開始				
録画停止	録画停止				
HDD	HDD 操作モード				
DVD	DVD 操作モード				
	＝ DVR のみ ＝ HDD 付 DVR のみ			＝ BS デジタルチューナーのみ	＝ SAT のみ

お使いになる前に
各部の名称とはたらき
接続
基本操作
応用操作
設定
他機器の操作
その他

プリセットコードリスト

DVD プレーヤー

メーカー名	メーカーコード
TOSHIBA	001
SONY	002, 016
PANASONIC	003
VICTOR	004
SAMSUNG	005
SHARP	006
AKAI	007
DENON	010
HITACHI	012
PHILIPS	013
MICROSOFT	017(DVD機能付きゲーム機)
PIONEER	000, 003, 008, 020, 111(DVD/LDプレーヤー)

BS デジタルチューナー内蔵テレビ

メーカー名	メーカーコード
PIONEER	231(BSデジタル) 667(地上波)

テレビ

メーカー名	メーカーコード
PANASONIC	622
SONY	604
TOSHIBA	663
MITSUBISHI	609
HITACHI	664
VICTOR	665
SHARP	602
SANYO	614
AIWA	660
NEC	659
FUNAI	658
FUJITSU	666
PIONEER	667(地上波のみ) 231

DVD レコーダー

メーカー名	メーカーコード
PIONEER	456, 466, 467, 468
KENWOOD	456
SANYO	456
MITSUBISHI	456
TOSHIBA	464
PANASONIC	465

BS デジタルチューナー

メーカー名	メーカーコード
PANASONIC	226
VICTOR	227
TOSHIBA	228
PIONEER	226, 231 232(HDD内蔵)

VTR

メーカー名	メーカーコード
PANASONIC	482, 483, 493
TOSHIBA	484, 494
HITACHI	485, 492
SONY	480, 481, 495, 496, 497, 498
MITSUBISHI	486, 487, 490
SANYO	488
SHARP	489, 491

CS チューナー

メーカー名	メーカーコード
VICTOR	551, 552, 553
SHARP	554
TOSHIBA	555
HITACHI	556
SONY	557
PANASONIC	558
MASPRO	559, 560, 561
AIWA	562, 563, 564

CATV チューナー

メーカー名	メーカーコード
PIONEER	718

LD プレーヤー

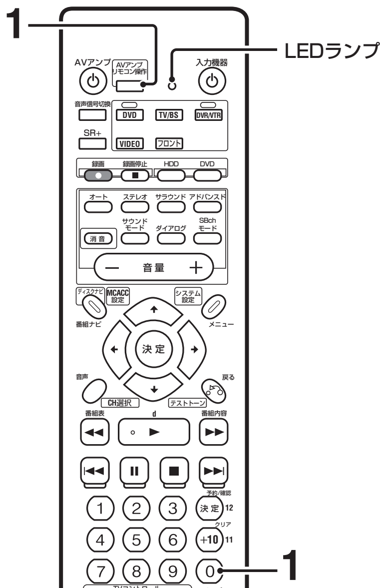
メーカー名	メーカーコード
SONY	101
PANASONIC	105, 106
KENWOOD	103
PHILIPS	104
MITSUBISHI	100
PIONEER	100, 111

メモ

▼ 本機のリモコンは上記の表にあるメーカーの製品に対応しています。すべてのプリセットコードを呼び出してもメーカーや製品によって、「操作できない」または「異なる働きをする」ことがあります。

リモコンの設定を工場出荷時に戻す

リモコンの設定をすべて工場出荷時に戻します。



1 AV アンプリモコン操作ボタンを押しながら数字(0)ボタンを 3 秒以上押し続ける



LEDランプが3回点滅します。
リモコンの操作モードはDVDに切り換わります。

メモ

- 3 回点滅する前に手を離すと、設定のリセットはキャンセルされます。
- 工場出荷時のプリセットコードの設定については『プリセットコードの工場出荷時の設定一覧』(49 ページ)をご覧ください。

その他

用語解説

DVD ソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1 枚のディスクに複数の音声が収録されていることが多く、どの音声を聴くか選ぶことができます。

例） ③)))　1. 英　語 (5.1ch サラウンド)　
2. 日本語 (ドルビーサラウンド)
3. 英　語 (DTS 5.1ch サラウンド)　

収録音声数　記録方式　音声記録方式

音声記録方式

ドルビーデジタル
DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラル信号(1ch)やドルビーサラウンド信号(2ch)などから5.1chサラウンド信号(現在の映画やDVDの記録方式の主流)まで網羅する柔軟性の高い方式です。5.1chソフトの各チャンネルには、独立した音声とLFEと呼ばれる低音が記録されています。デジタル接続して再生することにより、すべてのチャンネルの信号が伝送され、臨場感あふれるマルチチャンネルサラウンド再生を楽しむことができます。
ドルビーデジタル信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

ドルビーデジタルサラウンドEX
ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ・エピソード1」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。
新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果・音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL/サラウンドRチャンネルにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル（5.1ｃｈ）環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトでご覧になれます。http://www.dolby.com/

DTS 
デジタルシアターシステム (Digital Theater System)の略です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS-ES
2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、DTS-ESは「DTS Extended Surround」の略称です。“DTS-ES ディスクリート6.1”と“DTS-ES マトリックス6.1”の2種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。DTS-ESは従来の5.1chシステムにサラウンドバック(SB)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらす事が可能になりました。

DTS 96/24
DTS社が開発した最新サラウンドフォーマットで、スタジオのマスター音源のクオリティ(96kHz/24Bit)を踏襲する高音質な圧縮技術です。DVD-VIDEOフォーマットにおいて高画質な映像と高音質サウンドを同時に楽しめることを目的として開発されました。
既存のDTS 対応のDVD プレーヤーと、DTS96/24 デコーダー(本機はDTS96/24 デコーダーを搭載しています)をデジタル接続することで、このハイクオリティー音声が再生可能です(専用プレーヤーは必要ありません)。

PCM
Pulse Code Modulationの略で、圧縮していないデジタル音声です。CDの音声はほとんどこの方式で、DVDの標準音声フォーマットの1つでもあります。CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しむことができます。通常は2chで収録されています。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)
MPEG-2オーディオの標準方式の1つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率(低ビットレート)にもかかわらず、高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

その他

再生方式

マルチチャンネルサラウンド再生
3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。3ch以上で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生は、すべてのスピーカーからそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックII再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感を楽しむことができます。

ドルビープロロジックサラウンド再生
2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号をつくりだします。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックIIxサラウンド再生
ドルビープロロジックIIxは、ドルビープロロジックIIやドルビーデジタルEXをさらに改良し、ステレオ音声や5.1chの映画コンテンツを6.1chまたは7.1ch再生するマトリクスデコード技術です。ステレオ音声に対するマトリクスデコード技術は、メインchを5.1ch化していた従来のドルビープロロジックIIをさらに進化させ、メイン7chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、定位感をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材に対してはより効果的です。
また5.1chソースに対するマトリクスデコード技術は従来のドルビーデジタルEXをさらに進化させて、独立したサラウンドバック2chを作り出し、最大7.1ch再生が可能になりました。今まで以上に自然でシームレスな移動感、滑らかで包み込むような、音楽および映画サウンドを体験できます。
本機にはプロロジックIIxの機能として、2chソースに対しては、MOVIEモード（映画再生向き）/MUSICモード（音楽再生向き）/PRO LOGICモード、5.1chマルチchソースに対してはDolby Digital EXモード（映画再生向き）/MUSIC モード（音楽再生向き）を用意しており、お好みに合わせて切り替えることが可能です。
サラウンドバックチャンネルモードがOFF設定またはサラウンドバックスピーカーが「無し」に設定されている場合は自動的に従来のプロロジックIIモードになります。

■2chソースに対するプロロジックとプロロジックIIxの違い

	プロロジック	プロロジックII	プロロジックIIx
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声	すべてのステレオ音声/Dolby Digital 5.1chソース
デコードチャンネル数	4.1ch（サラウンドモノラル）	5.1ch（サラウンドステレオ）	6.1chまたは7.1ch（サラウンド、サラウンドバック、ステレオ）
周波数特性	サラウンド7kHz帯域制限	全チャンネルフルバンド	全チャンネルフルバンド

プロロジックIIx製品は、プロロジックIIxの持つ様々な機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックIIx搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしも全く同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS Neo:6再生
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての2chソースを6.0chサラウンドにするマトリックスデコード技術です。映画ソースの再生に適したCINEMAモードと音楽ソースの再生に適したMUSICモードがあります。

デコード

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです(2ch信号をドルビープロロジックII再生することをマトリックスデコードと呼ぶことがあります)。

メモ

▼ 本機は「6.1再生検出信号」(DTS - ESとDolby Digital Surround EX)を自動検出しますが、それらの技術を用いて上映された映画でも、DVD化の際にこの検出信号を収録していないものがあります。この場合は手動で最適なモードに変更してください。Surround EX技術により製作された映画のリストは各ウェブサイトでご覧になれます。
[上映映画リスト：http://www.dolby.com/]
[DVDタイトルリスト：http://www.thx.com/]

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から１年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低８年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い上げの販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理の依頼ができない場合は修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

『故障かな？と思ったら』(56～59ページ)に従って調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店へご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名 : AV マルチチャンネルアンプ
- 型番 : VSA-C502
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

保証期間中は…
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。
保証期間が過ぎているときは…
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕様

オーディオ部

実用最大出力(JEITA、1kHz、10%、6Ω)
フロント .... 100 W/CH
センター .... 100 W
サラウンド .... 100 W/CH
サラウンドバック .... 100 W
入力端子(感度 / インピーダンス)
.... 200 mV/47 kΩ
出力端子(レベル / インピーダンス)
DVR/VTR .... 200 mV/2.2 kΩ

ビデオ部

入力端子(感度 / インピーダンス)
.... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子(レベル / インピーダンス)
DVR/VTR, 映像(テレビへ) .... 1 Vp-p/75 Ω

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力 .... 210 W
スタンバイ時消費電力 .... 0.3 W
外形寸法 .... 420(幅)× 70(高さ)× 383(奥行) mm
質量 .... 6.7 kg

付属品

リモコン 1
MCACC 設定用マイク 1
マイクスタンド 1
単３形乾電池(R6P) 2
電源コード 1
同軸デジタルケーブル 1
スピーカーコードラベル 1
取扱説明書(本書) 1
ホームシアター入門 1
保証書 1

※ *仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。*

故障かな？と思ったら

思ったとおりに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具もあわせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合は『保証とアフターサービス』(55ページ) をお読みのうえ、販売店に点検(有料)をご依頼ください。

「音が出ない」ときは、まず以下の ① ② を確認してください!

① **テストトーンを出力する(36ページ)**
接続したすべてのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されているか確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続を見直し、『スピーカーの設定』(40～41ページ)を確認してください。

② **フォーマットインジケーターを確認する(22ページ)**
フォーマットインジケーターで「音が出る設定になっているスピーカー」と「入力している圧縮音声信号」を確認してください。思ったとおりに音が出ていないときは、以下のページをご覧ください。
『入力機器の設定を確認する』(22ページ)
『リスニングモードの種類と効果について』(27～28ページ)



すべてのスピーカーから音が出る設定となっていて、マルチチャンネル信号を入力している状態のフォーマットインジケーター

上記 ① ② を確認しても音が出ないときは、以下から60ページをご覧ください!

電源が入らないまたは電源が自動的に切れる

症状	原因	対策
「OVERLOAD」と点滅表示され、自動的に電源が切れる。	• 音量が大きすぎる。 • スピーカーコードがショート(接触)している。	• 音量を小さくしてから電源を入れ直してください。 • スピーカーコードの芯線を再度しっかりねじり直して、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。
自動的に電源が切れる。	• 本体後面部の放熱孔から異物が混入して、放熱ファンの異常が検出された。 • 本機内部の温度が許容値を超えた。 • 放熱ファンの故障です。 • 本機の故障です。	• 異物を取り除いてください。約10秒以上⏻STANDBY/ONボタンを押すと再度電源がONになります。 • 風通しを良くしてください。約10秒以上⏻STANDBY/ONボタンを押すと再度電源がONになります。 • 修理を依頼してください(55ページ)。 • すぐに本機の使用を中止して、電源コードを抜き、修理を依頼してください(55ページ)。この症状が起きたあとは電源のON/OFFを繰り返さないでください。
「AMP ERR」と点滅して自動的に電源が切れる。	本機の故障です。	すみやかに使用を停止し、電源コードを抜いたあとに修理を依頼してください。この症状が起きた後に電源のON/OFFを繰り返さないでください。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	原因	対策
音が出ない。	• 入力を再生機器に合わせていない。 • 音声が一時的に消音(ミュート)されている。 • 音量が小さくなっている。 • 接続したコード/ケーブルが端子から外れているまたは接続が間違っている。 • スピーカーコードがショート(接触)している。 • 接続したコード/ケーブルや端子のピンプラグが汚れている。	• 入力切換つまみ(INPUT SELECTOR)で入力を再生機器に合わせてください。 • リモコンの消音ボタンを押してください。 • 音量つまみ(MASTER VOLUME)で音量を調節してください。 • 接続を確認してください。 • スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、スピーカーコードの接続をやり直してください。 • 汚れを拭き取ってください。

症状	原因	対策
デジタル接続している機器から音が出ない。またはノイズが出る。	• DVDプレーヤーのデジタル出力の設定がオフに設定されている。 • CD-ROMなどのデータ信号を入力している。 • SACDはデジタル出力できません。 • DVDオーディオまたはSACDのマルチチャンネル音声はデジタル出力されません。 • DVDオーディオ2ch音声でもデジタル出力できないソフトもあります。	• DVDプレーヤーのデジタル出力の設定をオンに設定してください。 • 本機はデータ信号に対応していません。 • 5.1chアナログ音声接続してください(15ページ)。 • 5.1chアナログ音声接続してください(15ページ)。
フロント左/右スピーカー(チャンネル)から音が出ない。	フロント左/右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)が左/右いずれかに偏っている。	フロント左/右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整してください(35ページ)。
センター、サラウンド、またはサラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• スピーカーが「−(無し)」に設定されている。 • 各スピーカーの出力レベルが下がっている。 • スピーカーの接続が外れている。または接続を間違えている。 • 2ch出力のリスニングモード(「ステレオ」など)を選んでいる。 • 再生しているソフトやテレビ放送の音声が2ch分しか入っていない。 • サラウンドバックchモードがOFFに設定されている。 • 「6.1再生検出信号」の収録されていないソースをサラウンドバックchモード「AUTO」で再生している。 • 入力信号の種類とリスニングモードの関係が間違っている。	• スピーカーを正しく設定してください(40～41ページ)。 • スピーカーのレベルを上げてください(35ページ)。 • スピーカーを正しく接続してください。 • マルチチャンネルのリスニングモード(「サラウンド」など)を選んでください。 • 入力信号の種類にかかわらず、常にマルチチャンネル音声を聴きたいときは、マルチチャンネルのリスニングモード(「サラウンド」など)を選んでください。 • サラウンドバックchモードONまたはAUTOに設定する(32ページ)。 • サラウンドバックchモードをONに設定してください(32ページ)。 • 『リスニングモードの種類と効果について』(27～28ページ)をご覧になり、入力信号に合ったリスニングモードを選んでください。
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーから音が出ない設定になっている。 • サブウーファーの出力レベルが下がっている。 • サブウーファー本体のボリュームが小さい。 • LFEアッテネータが「OFF」に設定されている。 • 接続が外れている。 • 「サウンドモード」の「マナー」を選んでいる。	• 『サブウーファーの設定』(41ページ)を「OFF(SUBWF −)」以外に設定する。または、「スピーカーの設定」(40ページ)でフロントスピーカーを「小(S)」に設定する。 • サブウーファーの出力レベルを上げる(35ページ)。 • サブウーファー本体の音量を大きくする。 • 「0dB」または「−10dB」に設定する。『LFEアッテネータの設定』(42ページ)をご覧ください。 • サブウーファーを正しく接続してください。 • 「マナー」を解除してください(30ページ)。
ドルビーデジタルやDTS音声などで収録されているソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	• デジタル音声接続が外れて、アナログ音声が入力されている(DD/DTSインジケーター消灯)。 • DVDプレーヤーからDTS音声が出力されていない。またはDTS出力が「オフ」に設定されている。 • デジタル音声の出力レベルが低い(出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどのとき)。 • 音声入力が「アナログ(ANA)」に設定されている。	• 再生機器と正しくデジタル音声接続してください。 • DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTS出力のをオンに設定してください。 • 再生機器のデジタル音声の出力レベルを上げてください。 • 音声入力を「デジタル(DIG)」に切り換えてください(23ページ)。
DTS CDをプレーヤーでサーチするとノイズが出る。	サーチ中に含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	これは故障ではありません。サーチ中は本機の音量を小さくして、スピーカーから出る音を抑えてください。
DVR/VTR音声出力から電源スタンバイ中に歪んだ音が出る。	内部回路の電源がオフになっているためです。	これは故障ではありません。電源をONにしてお使いください。
音が歪む。	• 音量が大きすぎる。 • アナログ音声の入力レベルが大きすぎる。	• 本機の音量を小さくしてください。 • インプットアッテネータを「ON」に設定してください(45ページ)。
スピーカーから低音が出ない。	• スピーカーが「小(S)」に設定されている。 • 低音域を再生することができないスピーカーを接続している。	• スピーカーを「大(L)」に設定してください(40～41ページ)。 • スピーカーを変える。

その他

症状	原因	対策
発振している(異常な音が出るまたは映像が乱れる)。	本機と接続した機器の間にループができている。	接続を変える。またはテレビの入力を切り換えてください。
映像が乱れる、またはカセットデッキにノイズが入る。	本機と干渉している。	本機またはカセットデッキの設置場所を変えてください。
デュアルモノを設定してもBSデジタル放送の二カ国語音声が切り換わらない。	番組がデュアルモノ音声の放送でない(ステレオの二カ国語放送など)。	デュアルモノの設定は、入力される音声がデュアルモノラルフォーマットのときのみ有効です。デュアルモノラルフォーマット以外の音声のときは、BSデジタルチューナー(テレビ)側で切り換えてください。
本機を通して録画した番組の音声が録音されていない。	本機と入力を選んでいた機器がデジタル音声ケーブルでしか接続されていなかった。	デジタル音声信号はVTR端子からは出力されません。アナログ音声ケーブルでも接続してください。
本機を通して録音した音がスピーカーから出てくる音と違う。	VTR端子からはアナログ音声端子から入力された音声がそのまま出力されるため。	
テストトーンが出ないスピーカーがある。	• 接続が外れている。 • スピーカーが「無し」に設定されている。	• 正しく接続してください。 • スピーカーを正しく設定してください(40～41ページ)。
DVDオーディオを再生したが2chにダウンミックスされているような音になっている。	音声入力(5.1CH)端子で接続したものではない信号を再生しています(デジタルPCM出力など)。	音声入力(5.1CH)端子の接続を再確認して、音声信号切換ボタンで音声入力信号を選択してください(23ページ)。
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーシステムの設定が「無し(－)」になっています。 • スピーカーの接続が外れています。 • ソフトのサウンドトラックが意図的にそのように録音されています。 • スピーカーの出力レベルの設定が小さくなっています。	• スピーカーシステムの設定を修正してください(40～41ページ)。 • スピーカーの接続を確認してください(18ページ)。 • ADVANCED SURROUNDモードを選択すると効果音のみ出力される場合があります。 • スピーカーの出力レベルの設定を上げてください(35ページ)。
マルチチャンネル音声が出力されない	• DVDプレーヤーアナログ音声出力の設定が正しくない。 • 本機の音声入力信号が正しく設定されていない。 • SACD(ハイブリットSACD)の2chエリア/マルチchエリアの設定が正しくない。	• DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。 • 音声入力信号の切り換えを正しく行ってください(23ページ)。 • DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、正しく設定してください。

映像が出ないまたは乱れるとき

症状	原因	対策
本機の入力を合わせても映像が出ない。	• 入力機器およびテレビとの接続に異なる形状の映像ケーブルを使用している。 • 入力機器の映像出力が正しく設定されていない。 • テレビをS映像端子と映像端子の両方で接続しているため、テレビ側でS映像入力を優先している。	• 同じ形状の映像ケーブルで入力機器およびテレビを接続してください(13ページ)。 • 入力機器の取扱説明書をご覧になり、正しい映像出力に設定してください。 • テレビの取扱説明書をご覧になり、正しく接続してください。
録画できない。	入力機器の映像出力をS映像端子またはD映像端子のみで接続している。	映像端子も接続してください。
映像が乱れる。	本機と他機器(カセットデッキ)が干渉している。	本機または他機器の設置場所を変えてください。

インジケーターが点灯しないまたは違うインジケーターが点灯するとき

症状	原因	対策
圧縮デジタル*のソフトを再生してもすべてのプログラムフォーマットインジケーターが点灯しない。	収録フォーマットが5.1chになっています(または「6.1再生検出信号」対応ではありません)。	故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください(53ページ)。
圧縮デジタル*のソフトを再生してもPro Logic(またはNeo:6)表示になる。	• デジタル信号が入力されていません。 • ソフトの音声が2chフォーマットです。 • ドルビーサラウンドエンコードされたソフトです。	• 音声信号切換ボタンで「アナログ(ANA)」または「デジタル(DIG)」を選んでください(23ページ)。 • 故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください。 • 故障ではありません。再生しているソフトのパッケージをご確認ください(53ページ)。

圧縮デジタル*：ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACなどの総称として使用しています。

症状	原因	対策
Surround EX(またはDTS ES)ソフトなのに、AUTOでもEX(またはES)デコードしない。	「6.1再生検出信号」が記録されていません(劇場公開時とDVD収録時はまれに違う場合があります)。	サラウンドバックモードをONにしてください。
ドルビーデジタルまたはDTSなどのDVDソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	• 再生機器が停止または一時停止している。 • 再生機器の音声出力が間違って設定されている。 • 再生しているソフトの音声出力が間違って設定されている。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されていない部分を再生している(メニュー画面など)。	• 再生機器の再生を開始する。 • 再生機器の音声出力を正しく設定する。 • 再生しているDVDソフトの音声出力を正しく設定する。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されている音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BSデジタル放送をデジタル音声で聴いているときにAACインジケーターが点灯しない。	• BSデジタルチューナー(またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ)の音声出力をPCMに設定している。	• BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧になり、MPEG(AAC)音声が出力されるように設定する。
DVDオーディオを再生するとプレーヤーには96kHzと表示されるが、本機では表示されない。	音声入力(5.1CH)端子はアナログ入力端子なので、デジタル情報を表示することはできません。	故障ではありません。DVDプレーヤーの取扱説明書もご覧ください。
96kHzのソフト(DTS96/24を含む)を再生しても表示が96kHzにならない。	• リスニングモードが適切でない。 • サウンドモードが設定されている。	• ソフトに応じたリスニングモードを選んでください(27～29ページ)。 • サウンドモードを「OFF」にしてください(30ページ)。

その他

症状	原因	対策
リモコンで操作できない。	• リモコンが違う機器の操作モードになっている。 • 操作したい機器のリモコンコードが呼び出されていない。 • リモコンの電池が消耗している。 • 本体との距離が離れすぎている。リモコンを向けている角度が範囲外である。 • リモコンとリモコン受光部の間に信号を遮る障害物がある。 • 蛍光灯などの強い光がリモコン受光部に当たっている。 • 本機のコントロール入力端子にコードが接続されている。	• リモコンの操作モードを切り換える(49ページ) • プリセットコードを設定する(50ページ) • 電池を交換する(7ページ)。 • 本体リモコン受光部から7m以内、左右30°の範囲で操作してください(11ページ)。 • 障害物を取り除いてください。または、操作する場所を変えてください。 • リモコン受光部に光が直接当たらないようにしてください。 • コントロール出力端子のみに接続した機器に向けてリモコンを操作してください。
表示が暗いまたは明るすぎる。	表示部の明るさの調整が適当でない。	表示部の明るさを調整(ディマー)してください(34ページ)。
操作中のみ表示が点灯して、操作後すぐに消灯してしまう。	表示部の明るさが「OFF」に設定されている。	表示部の明るさを調整(ディマー)してください(34ページ)。
設定がすべて工場出荷時に戻ってしまった。	約1カ月以上電源コードを抜いたままにしていた。	約1カ月以上電源コードを抜いた状態にしておくと、設定が工場出荷時に戻ります。再度設定してください。
リモコンのCH選択ボタンを押しても選べないスピーカーがある。	• スピーカーが「無し」に設定されている。 • 2ch出力のリスニングモード(「ステレオ」など)を選んでいる。	• スピーカーを正しく設定してください(40～41ページ)。 • マルチチャンネルのリスニングモード(「サラウンド」など)を選んでください(27～29ページ)。

MCACC設定がうまくいかない

症状	原因	対策
MCACC設定を何度行ってもエラーになる。	部屋の測定環境が整っていません。	注意事項に従って部屋の測定環境を整えてから設定を行ってください。
測定結果のサブウーファーの距離が実際の距離より長い。	サブウーファーの内部ローパスフィルターの遅延特性の影響で再生音にディレイがかかっています。	MCACCでは、こういった遅延特性を考慮したうえで距離を特定して正確なディレイ時間を設定するようにしています。
スピーカーの「大」、「小」設定が誤った設定になる。	耳に聴こえにくい周波数の騒音があります。	エアコンなどモーターを使用した機器の電源を切ってみてください。または、設置環境の影響を受けています。
部屋は静かなのに「NOISY!」と表示されてしまう。	耳に聴こえない(または慣れてしまった)騒音源があるかもしれません。	エアコンなどのモーターを使用した機器やTVモニター、超音波ねずみ駆除装置などの電源を一時的にOFFにするか、遠ざけるなどの処置を行ってみてください。

目的別索引

「目的(本機でやりたいこと)」から詳細が載っているページを探してください。

目的		対応している項目 → ページ
再生	2つのフロントスピーカーから音を出したい(ステレオ再生)。	再生する(基本再生)→ 21 ページ リスニングモードの種類と効果について→ 27 ~ 28 ページ
サラウンドに関する設定(システム設定)	3つ以上のスピーカーから音を出したい(マルチチャンネルサラウンド再生)。	再生する(基本再生)→ 21 ページ リスニングモードの種類と効果について→ 27 ~ 28 ページ
	スピーカーの接続の有無や大きさ(大/小)を設定したい。	スピーカーの設定について→ 37 ~ 38 ページ
音量調節	視聴位置(リスニングポジション)からスピーカーまでの距離を設定したい。	スピーカーまでの距離の設定について→ 38 ページ
	一時的に音を消したい。	一時的に音を消す(ミュート)→ 34 ページ
	スピーカの音量を個別に調節したい。	特定の各スピーカーの音量を調節する(チャンネルレベル)→ 35 ページ
音質	アナログ音声を聴いているときの音の歪みを少なくしたい。	インプットアッテネータの設定→ 45 ページ
	ドルビーデジタルまたはDTS音声で収録されているソフトを聴いているときの歪みを少なくしたい(LFE成分によって発生した歪みを低減したい)。	LFE アッテネータの設定→ 42 ページ
	再生するソフトのジャンルに合わせてサウンドを選びたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 27 ~ 28 ページ サウンドモードの種類と効果について→ 30 ページ
	小さな音で視聴しているときの聴き取りにくい音(セリフなど)を聴きとりやすくしたい。	サウンドモードの種類と効果について→ 30 ページ ダイナミックレンジコントロールの設定→ 44 ページ
	高音や低音を和らげたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 27 ~ 28 ページ サウンドモードの種類と効果について→ 30 ページ
	低音を大きくしたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 27 ~ 28 ページ サウンドモードの種類と効果について→ 30 ページ
周波数特性	サブウーファーから何Hz以下の低音を出すか設定したい。	サブウーファーの設定→ 41 ページ
ユーザー設定	表示部の明るさを調整したい。	表示部の明るさを調整する→ 34 ページ
リモコン	接続している機器を操作したい。	付属のリモコンで他機器を操作する(操作モードの切換)→49ページ
	接続しているパイオニア以外の機器を付属のリモコンで操作したい。	プリセットコードを設定する(リモコンの呼び出し)→ 50 ページ
	リモコンの設定を工場出荷時に戻したい。	リモコンの設定を工場出荷時に戻す→ 52 ページ
その他	すべての設定を買ったときと同じ状態にしたい。	すべての設定を工場出荷時の状態に戻す→ 48 ページ

用語別索引

あ行

か行

さ行

た行

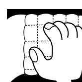
な行

は行

ま行

ら行

表示部



お手入れについて
通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。



音のエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

修理のご相談 / 修理についてのお問い合わせ窓口

パイオニア製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理についてはお買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合は、窓口(裏表紙)へご相談くださるようお願いいたします。

サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、修理受付センター(裏表紙)でお受けします。
(沖縄県の方は沖縄サービスステーション(裏表紙)でお受けします)

●北海道地区			受付 月〜金 9：30〜18：00 (土・日・祝・弊社休日は除く)	
札幌サービスセンター	FAX	011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北２条西 20-1-3 クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX	0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町１条１丁目 438-89
帯広サービス認定店	FAX	0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西５条南 28 丁目 1-1
函館サービス認定店	FAX	0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町 2-18-7

●東北地区			受付 月〜金 9：30〜18：00 (土・日・祝・弊社休日は除く)	
仙台サービスステーション	FAX	022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈石田 20
山形サービス認定店	FAX	023-615-1627	〒990-0023	山形市松波 1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX	019-659-3165	〒020-0051	盛岡市下太田下川原 153-1
青森サービス認定店	FAX	017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田 2-16-10
八戸サービス認定店	FAX	0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野 4-3-34
秋田サービス認定店	FAX	018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目 346-1
郡山サービスステーション	FAX	024-939-1372	〒963-8861	郡山市鶴見坦 1-9-25 クレールアヴェニュー伊藤第２ビル

●関東・甲信越地区			受付 月〜土 9：30〜18：00 (日・祝・弊社休日は除く)	
世田谷サービスステーション	FAX	03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢 4-25-9
墨田サービスステーション	FAX	03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原 4-27-9 中島 IC ハイツ 1F
城北サービスステーション	FAX	03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸 4-11-14
多摩サービスステーション	FAX	042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町 4-18-1 エクセル立川１F
新潟サービスステーション	FAX	025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙 1-5-23
佐渡サービス指定店 横山電機商会	FAX	0259-63-3400	〒952-1209	佐渡郡金井町千種 1158-1
千葉サービスセンター	FAX	043-207-2555	〒263-0015	千葉市稲毛区作草部 1369-1 椎の実ハイツ 1F
つくばサービス認定店	FAX	0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園 2-2-6
水戸サービス認定店	FAX	029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町 307-4
埼玉サービスセンター	FAX	048-651-8030	〒330-0038	さいたま市北区宮原町 1-310-1
川越サービス認定店	FAX	049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷 1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX	028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町 3373-1
群馬サービス認定店	FAX	0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町 1191-17 パサージュ 808 伊勢崎 101 号
神奈川サービスセンター	FAX	045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1 ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX	045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南 1-19-17
厚木サービス認定店	FAX	046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田 339-1 金田コーポフロンテア 201
三宅島サービス指定店 勝見電機	TEL	04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX	0263-48-2768	〒390-0852	松本市大字島立 180-5
長野サービス認定店	FAX	026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所 1-24
甲府サービス認定店	FAX	055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田 4-9-14

●中部地区			受付 月〜金 9：30〜18：00 (土・日・祝・弊社休日は除く)	
名古屋サービスセンター	FAX	052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切 2-8-18
津サービス認定店	FAX	059-213-6712	〒514-0821	津市垂水 522-5
岡崎サービス認定店	FAX	0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1 大和ビレッジ B-1
岐阜サービス認定店	FAX	058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東 1-1-3
静岡サービスステーション	FAX	054-237-5691	〒422-8034	静岡市高松 1-6-5
沼津サービス認定店	FAX	0559-21-9050	〒410-0058	沼津市沼北町 1-14-26
浜松サービス認定店	FAX	053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町 415 ビラモデルナ５号
金沢サービスステーション	FAX	076-291-6425	〒921-8005	金沢市間明町 1-130
富山サービス認定店	FAX	076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町 1-7-1
福井サービス認定店	FAX	0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺 3-5-9

●関西地区		受付　月～金　9：30～18：00　（土・日・祝・弊社休日は除く）
大阪サービスセンター	FAX　06-6353-1145	〒530-0035　大阪市北区同心2-1-26
大阪南サービス認定店	FAX　0722-75-2625	〒593-8322　堺市津久野町1-8-15　ローズマンション1F
大阪北サービス認定店	FAX　06-6453-5666	〒531-0076　大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店	FAX　0742-36-8713	〒630-8132　奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店	FAX　0734-46-3026	〒641-0021　和歌山市和歌浦東3-1-25
京滋サービスステーション	FAX　075-682-7176	〒601-8448　京都市南区西九条豊田町24-1
福知山サービス認定店	FAX　0773-24-5375	〒620-0055　福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション
神戸サービスステーション	FAX　078-251-7173	〒651-0086　神戸市中央区磯上通り5-1-13
姫路サービス認定店	FAX　0792-51-2656	〒671-0224　姫路市別所町佐土4-2

●中国地区		受付　月～金　9：30～18：00　（土・日・祝・弊社休日は除く）
広島サービスステーション	FAX　082-227-4866	〒730-0013　広島市中区八丁堀2-31　鴻池ビル
徳山サービス認定店	FAX　0834-33-5759	〒745-0006　徳山市花畠町3-11　森広事務所1F
福山サービス認定店	FAX　0849-31-2791	〒720-0815　福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション	FAX　086-244-8748	〒700-0975　岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX　0852-22-7779	〒690-0017　松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX　0857-29-1290	〒680-0061　鳥取市立川町5-240-1

●四国地区		受付　月～金　9：30～18：00　（土・日・祝・弊社休日は除く）
高松サービスステーション	FAX　087-861-4841	〒760-0078　高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX　088-669-6076	〒770-8023　徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX　088-802-3321	〒780-0051　高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル１Ｆ
松山サービス認定店	FAX　089-951-6270	〒791-8067　松山市古三津5-10-35　商船ビル１Ｆ

●九州地区		受付　月～金　9：30～18：00　（土・日・祝・弊社休日は除く）
福岡サービスステーション	FAX　092-412-7460	〒812-0016　福岡市博多区博多駅南2-12-3
博多サービス認定店	FAX　092-461-1643	〒812-0006　福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX　095-849-4606	〒852-8145　長崎市昭和１丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX　096-331-3323	〒862-0918　熊本市花立５丁目14-17
大分サービス認定店	FAX　097-549-2420	〒870-0889　大分市大石町５丁目1-1
北九州サービスステーション	FAX　093-951-1748	〒802-0011　北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX　099-224-7692	〒892-0841　鹿児島市照国町3-21　第二大見ビル２Ｆ
宮崎サービス認定店	FAX　0985-27-3136	〒880-0821　宮崎市浮城町98-1

●沖縄地区		受付　月～金　9：30～18：00　（土・日・祝・弊社休日は除く）
沖縄サービスステーション	TEL　098-879-1910 FAX　098-879-1352	〒901-2122　浦添市勢理客4-18-1　トヨタマイカーセンター3Ｆ

修理窓口・ご相談窓口の名称・所在地・電話番号は変更することがございますのでご了承ください。



長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**



すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、「保証とアフターサービス」(55ページ)をお読みのうえ、販売店に点検(有料)をご依頼ください。

ご相談窓口 ・ 修理窓口のご案内

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。
なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を１度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名 ②ご購入日 ③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

●ホームページ　商品に関する「よくあるお問い合せ」FAQのご案内　http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html

<下記窓口へのお問い合わせの時のご注意>市外局番「0070」で始まるフリーフォン及び「0120」で始まるフリーダイヤルは、ＰＨＳ、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１７：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

●カーオーディオ／カーナビゲーション製品のご相談窓口	（フリーフォン）００７０－８００－８１８１－１１
一般電話	【一般電話】０３－５４９６－８０１６
●家庭用オーディオ／ビジュアル製品（PDP・DVDなど）のご相談窓口	（フリーフォン）００７０－８００－８１８１－２２
一般電話	【一般電話】０３－５４９６－２９８６
●カタログのご請求窓口	（フリーフォン）００７０－８００－８１８１－３３
カタログ請求とメールサービス登録のご案内	http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html
●ファックス受付	０３－３４９０－５７１８

家庭用電話機に関するご相談窓口

受付　月曜～土曜・日曜・祝日 ９：３０～１７：３０（弊社休業日は除く）

●パイオニアコミュニケーションズ（株）　お客様相談室
東日本地区（埼玉県所沢市）０４－２９４９－５１３１　西日本地区（大阪市）０６－６５３３－００９９　ファックス　０４－２９４９－５５０１

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１７：００（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０９５　　ファックス（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０９６
一般電話　０５３８－４３－１１６１

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター

受付　月曜～金曜 ９：３０～２０：００、土曜・日曜・祝日 ９：３０～１２：００、１３：００～１８：００（弊社休業日は除く）

電話（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０２８（ゴーパイオニア）　　ファックス（フリーダイヤル）０１２０－５－８１０２９
一般電話　０３－５４９６－２０２３

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜 ９：３０～１８：００（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

一般電話　０９８－８７９－１９１０　　ファックス　０９８－８７９－１３５２

平成１６年２月現在　(ARY-1127-A)

JIS C 61000-3-2適合品　D50-5-10-1_A_Ja

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<04E000001>　<ARA7200-A>